

CONTENTS

第 1 部 はじめに

システムとソフトウェアの必要条件	1-1
ご注意	1-1
この取扱説明書について	1-2

第 2 部 *CuttingFactoryPRO* の使い方

第 1 章 ウィンドウやツールの操作

画面の説明	2-1-1
サイドバーのパネル操作	2-1-3
編集モードについて	2-1-4

第 2 章 ファイルメニュー

新規作成	2-2-1
開く	2-2-2
閉じる	2-2-3
上書き保存	2-2-4
名前を付けて保存	2-2-5
インポート	2-2-8
TWAIN 入力	2-2-6
カット	2-2-10
プリント	2-2-12
プリント設定	2-2-14
用紙	2-2-15
各種設定	2-2-17
終了	2-2-21

第 3 章 編集メニュー

元に戻す	2-3-1
やり直す	2-3-1
切り取り・コピー・貼り付け	2-3-2
削除	2-3-3

すべてを削除	2-3-3
すべて選択	2-3-4
選択を解除	2-3-4
選択	2-3-5
ペイント情報のコピー・ペースト	2-3-6

第4章 オブジェクトメニュー

変形	2-4-1
アレンジ	2-4-4
グループ・グループ解除	2-4-6
ロック・ロック解除	2-4-7
隠す・全てを表示	2-4-8
オブジェクト編集	2-4-9
レイヤー移動	2-4-13
マスク	2-4-14
線種	2-4-15
グラデーション	2-4-16

第5章 文字メニュー

新規	2-5-1
変更	2-5-2
編集	2-5-4
円弧配列	2-5-4
パスフィット	2-5-5
文字列の分解	2-5-6
連番	2-5-7

第6章 レイアウトメニュー

整列	2-6-1
並び	2-6-2
鏡像	2-6-3
全体回転	2-6-4
連続コピー	2-6-5
データ枠に登録	2-6-6

第7章 表示メニュー

全体表示	2-7-1
用紙表示	2-7-2
実寸表示	2-7-3
ズームイン	2-7-4
ズームアウト	2-7-4
オブジェクトビュー	2-7-5
グリッド表示	2-7-6
グリッドヘスナップ	2-7-7
グリッド設定	2-7-8
ガイド表示	2-7-9
ガイドヘスナップ	2-7-11
ガイド設定	2-7-11

第8章 ツールメニュー

トレース	2-8-1
画像編集	2-8-2
オフセット	2-8-4
パスファインダ	2-8-5
影付け	2-8-6
エンベロープ	2-8-9
矩形変形	2-8-10
ペンのアウトライン化	2-8-11
グラデーションコントロール	2-8-12
カス取り線作成	2-8-13
表組・罫線の作成	2-8-14
トンボ作成	2-8-15

第9章 ウィンドウメニュー

ウィンドウメニュー	2-9-1
パレット・カラー	2-9-3
位置・サイズ	2-9-4
レイアウト	2-9-5
ペン設定	2-9-6
レイアウトボックス	2-9-8

文字	2-9-9
データファインダ	2-9-11
データブラウザ	2-9-11
レイヤー	2-9-12

第 10 章 ヘルプメニュー

チュートリアル	2-10-1
コマンドリファレンス	2-10-1
オンライン登録	2-10-1
バージョン情報	2-10-2

第 1 部 はじめに

- システムとソフトウェアの必要条件
- ご注意
- この取り扱い説明書について

はじめに

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

CuttingFactoryPRO は、デザイン、カット、プリントを行うための、専門的な機能をご提供いたします

システムとソフトウェアの必要条件

CuttingFactoryPRO をインストールして使用するには、次の条件が必要です。

OS	WindowsXP (32bit) / Vista (32bit) / 7 (32bit) のいずれかが動作する PC / AT 互換機
パソコン	Core2Duo 1.8GHz 以上
メモリ	1GB 以上
HDD	10GB 以上の空き容量
解像度	SXGA 規格 (1280×1024 ピクセル) 以上推奨
表示色	16bit High Color (65536 色) 以上
その他	CD-ROM

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で転載、複写することは固くお断りいたします。
- 本ソフトウェアの他ディスクへのコピーや（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- ユーロポート株式会社の保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、ユーロポート株式会社に損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してメディア（ワーク）等の損失やメディアを使用して作成されたものによって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及び各国での登録商標であり、その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この取り扱い説明書について

本書は *CuttingFactoryPRO* の使い方とその機能について説明しています。

◆ 本文中の表記について

- メニューに表示する項目は[ファイル]メニューのように[]で表記。
- ダイアログに表示するボタンは【OK】のように【 】で表記。
- ダイアログボックスの名称は『用紙設定』ダイアログボックスのように『 』で表記。
- キーボードの表記は **Shift** キーというように で表記。
- ソフトウェアの名称は *CuttingFactoryPRO* というように斜体で表記。

◆ 特記事項について

 ヒント	<i>CuttingFactoryPRO</i> を使用する際に便利な使い方、ヒントについて説明しています。
 注意	<i>CuttingFactoryPRO</i> を使用する際に注意する点を説明しています。
Shift キーを押しながら選択操作を行うと、追加選択や部分的な選択解除が行えます。 ヒントの内容は直感的に分かりやすく枠の中に記載しています。	

第 2 部 *CuttingFactoryPRO* の使い方

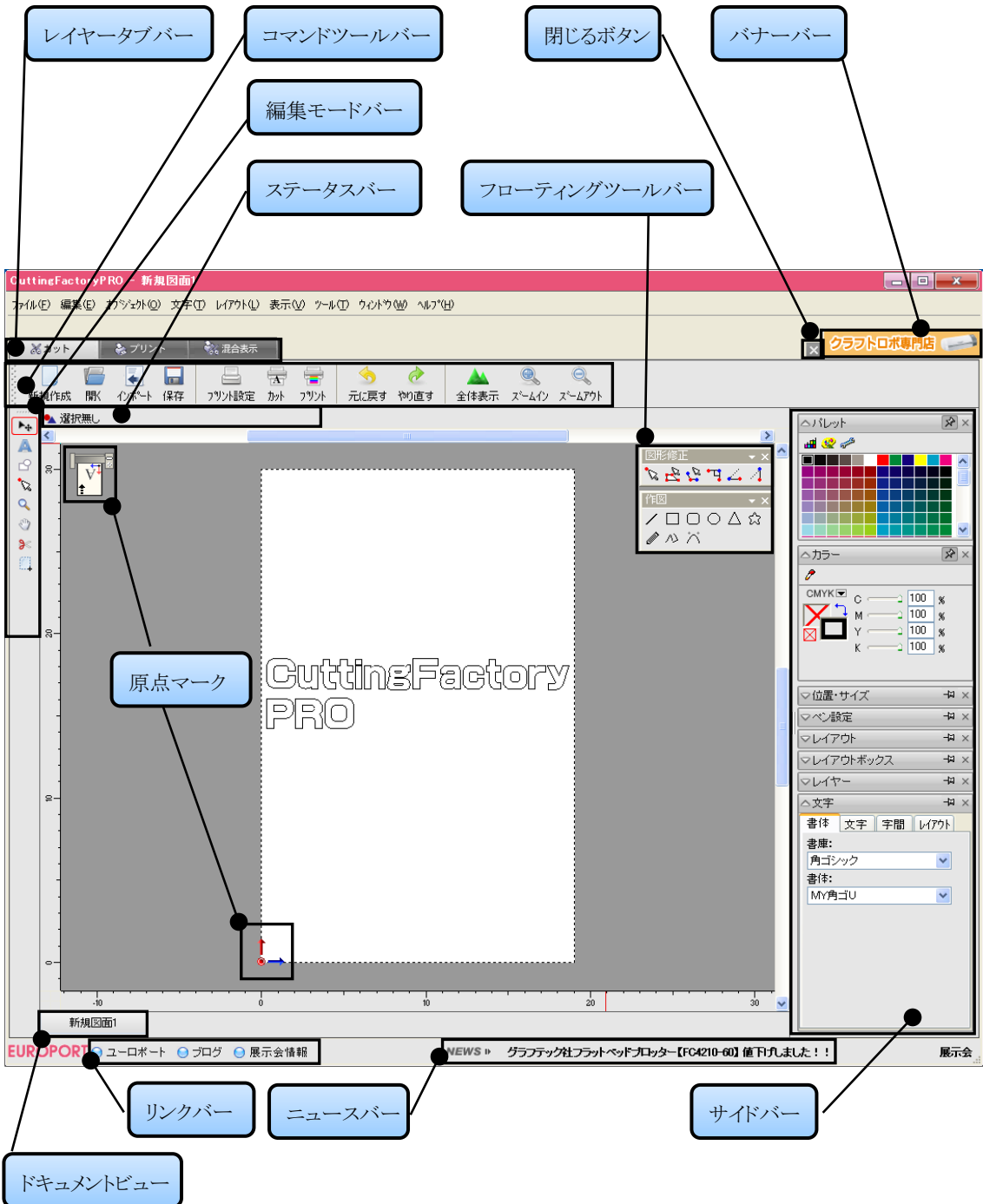
- 第 1 章 ウィンドウやツールの操作
- 第 2 章 ファイルメニュー
- 第 3 章 編集メニュー
- 第 4 章 オブジェクトメニュー
- 第 5 章 文字メニュー
- 第 6 章 レイアウトメニュー
- 第 7 章 表示メニュー
- 第 8 章 ツールメニュー
- 第 9 章 ウィンドウメニュー
- 第 10 章 ヘルプメニュー

第 2-1 章 ウィンドウやツールの操作

- 画面の説明
- アプリケーションバー
- 取り込みモード
- サイドバー内のウィンドウの操作
- 編集モードについて
 - ◆ 選択モード
 - ◆ 文字入力モード
 - ◆ 作図モード
 - ◆ 図形修正モード
 - ◆ ズームモード
 - ◆ 移動モード
 - ◆ トリミングモード
 - ◆ 寸法線の作成

画面の説明

CuttingFactoryPRO の標準編集モードの画面です。





[ウィンドウ]－[パネル]－
[レイヤー]から、さらに多くの
レイヤーを扱うことが出来ま
す。



CuttingFactoryPROのウィ
ンドウ枠、サイドバーの幅、
ヘルプビューの高さは自由
に変えることが出来ます。そ
れぞれの枠の縁にマウスカー
ソルを合わせ、カーソルが
矢印に変わったところでドラ
ッグします。

● レイヤータブバー

作業ウィンドウに表示するレイヤーを切り替えます。

- プリント :プリントレイヤーだけを表示します。
- カット :カットレイヤーだけを表示します。
- 混合表示 :プリントレイヤーとカットレイヤーを表示します。

● コマンドツールバー

頻繁に使われる機能のアイコンが配置されています。

● 編集モードバー

編集モードを切り替えるアイコンが配置されています。

● ステータスバー

選択中のオブジェクトの情報などが表示されます。

● 閉じるボタン

編集中のドキュメントを閉じるボタンです。

● バナーバー

新製品情報などを通知するバナーボタンエリアです。

● フローティングツールバー

図形修正・作図・寸法線などで利用するアイコンを表示します。

● ドキュメントビュー

作成中の図面ファイル名が表示されます。ファイル名を選択すると、
編集する図面を切り替えられます。

● リンクバー

ユーロポート HP 等のリンク集です。

● ニュースバー

テキストメッセージ形式で情報をお伝えするエリアです。

● サイドバー

様々なパネルが配置されます。

(各パネルについては「第 9 章 ウィンドウメニュー」参照)

● 原点マーク

選択しているプロッタの原点位置や方向を示すマークです。

サイドバーのパネル操作



◆ パネルの表示状態を切り替える

パネルが開いている状態で、パネル名の左にある「△」をクリックするか、タイトルバーをダブルクリックするとパネルが折り畳まれます。

パネルが閉じた状態で、パネル名の左にある「▽」をクリックするか、タイトルバーをダブルクリックするとパネルが開かれます。

パネルの右上の「×」(閉じる)ボタンをクリックするとパネルが非表示になります。再びパネルを表示するには、メニューの[ウィンドウ]－[パネル]メニューから開きたいパネルを選択します。チェックが入っているとパネルが開いています。

パネルの右上の (表示アンロック状態) ボタンをクリックすると (表示ロック状態) と交互に切り替えることが出来ます。表示ロック状態のパネルは別のパネルを開いた時に閉じません、表示アンロック状態になっていると別のパネルを開いた時に自動的に閉じる動作をします。

編集モードについて



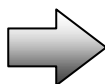
編集モードバーには、頻繁に使われる編集モードを切り替えるためのアイコンが配置されています。

◆ 編集モードを切り替えるには？

編集モードを切り替えるには、任意のアイコンをクリックして、アイコンが四角で囲まれた状態にします。本マニュアルではこの状態を「編集モードが選択された」と表記します。



マウスポインタを目的のモードに合わせてクリックすると



目的のモードが選択され、マウスポインタの形が変わります。

選択モード



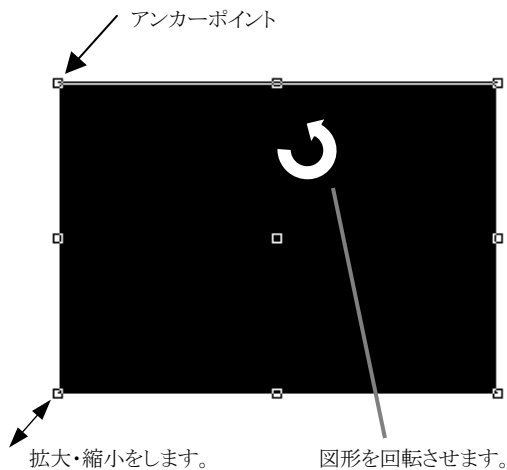
オブジェクトを選択するためのモードです。オブジェクトをクリックまたは、オブジェクトの一部をドラッグすることで選択できます。また、選択されたオブジェクトの移動、コピー、変形を行うことができます。



◆ アンカーポイントを使って、回転・拡大・縮小する

オブジェクトを選択し、中心にあるアンカーポイントの上にマウスをのせるとアイコンが回転カーソルに変わります。このカーソルが出ている時に回転方向にドラッグすると回転します。

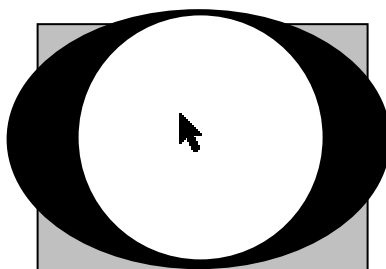
また、外側にある8つのポイントの上にマウスをのせると拡大・縮小カーソルが表示されますので、任意の大きさにドラッグします。この時 **Shift** キーを押しながら角のアンカーポイントをドラッグすると等倍比率にて拡大・縮小することができます。





◆ 下に隠れているオブジェクトを選択する

複数のオブジェクトが重なり合っている場合、オブジェクトをクリックする毎に、順番に下のオブジェクトを選択することが出来ます。



この例で下にある四角を選択する場合、重なり合ったオブジェクトの上で数回クリックすると選択されます。

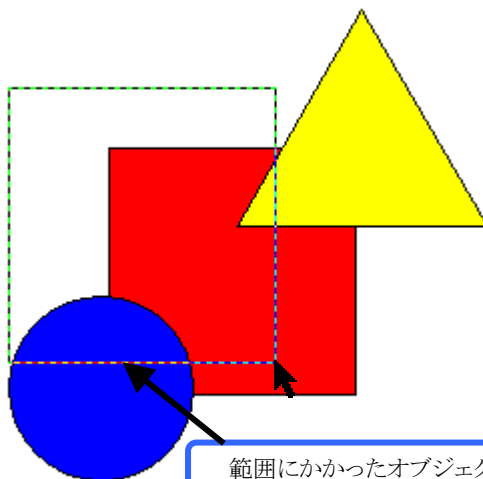
◆ 複数のオブジェクトを選択する

《方法 1》

[Shift] キーを押しながら、任意のオブジェクトをクリックし選択します。

《方法 2》

選択する複数のオブジェクト全体を囲うようにしてドラッグします。



範囲にかかったオブジェクト全てが選択されます

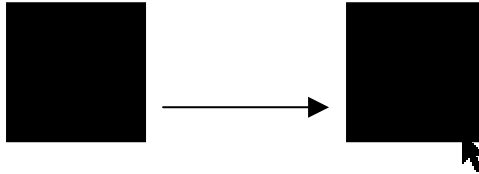


[ファイル]－[環境設定]で範囲選択を「一部かかり」にチェックを入れると、オブジェクトの一部がかかるように範囲選択することができます。



◆ コピーする

[Ctrl] キーを押しながらドラッグするとオブジェクトがコピーされます。



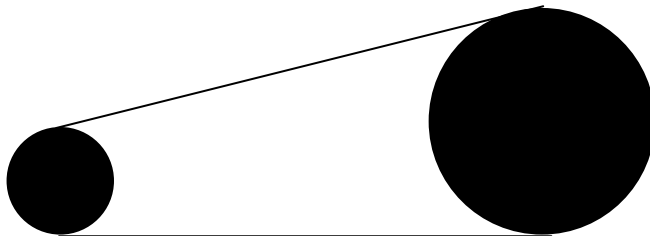
◆ 平行・垂直に移動・コピーする

[Shift] キーを押しながらドラッグすると水平・垂直移動になります。**[Ctrl]** キーを同時に押すとコピーされます。



◆ 等倍比に拡大・縮小する

[Shift] キーを押しながら角のアンカーポイントをドラッグして拡大・縮小すると等倍比率にて変倍されます。



文字入力モード



文字入力モードでは、「レイアウト枠」「文字サイズ」「フィット枠」の 3 種類の方法で文字入力できます。また、*CuttingFactoryPRO* では、Windows に登録されている TrueType と *CuttingFactoryPRO* に組み込まれている専用フォントの両方が使用できますので、文字の表現がより豊かになります。

※新しい文字の追加

TrueType インストール時は、TrueType に添付されている使用方法に従ってインストールして下さい。

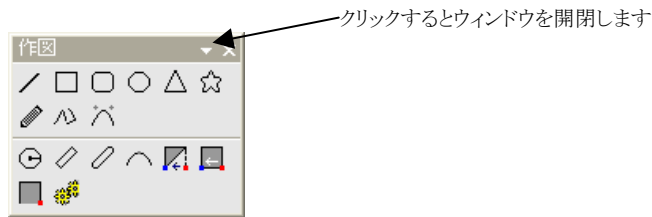
◆ 文字を入力する

- 【1】 操作メニューから[文字]をクリックします。
- 【2】 マウスのポイントが  に変わります。
- 【3】 文字枠の範囲を指定して文字入力を行って下さい。

作図モード



様々な図形作成ツールがあります。各作成ツールの使用方法是下記の通りです。



直線



【1】 線分を作成します。

【2】 始点から終点をドラッグして線分を作成します。

四角



【1】 四角を作成します。

【2】 始点から終点をドラッグして四角を作成します。

角丸四角



【1】  をクリックし、カド丸の割合を 0～100% の範囲で入力します。

【2】 始点から対角点までドラッグし、大きさ・形を調整します。正方形を作成する場合は **Shift** キーを押しながらドラッグします。

楕円



【1】 始点から対角点までドラッグし、大きさ・形を調整します。

【1】

多角形



【1】  をクリックし、多角形角数を設定します。

【2】 中心点から外枠までドラッグし、大きさ・形を調整します。

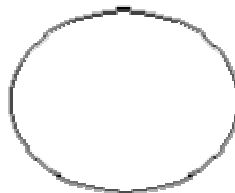
スター



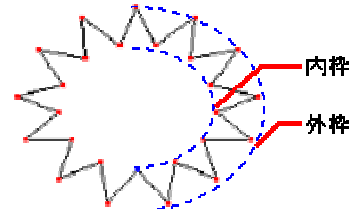
【1】  をクリックし、スターの角の数を設定します。

【2】 中心点から、スターの角の内枠までドラッグします。

【3】 再度クリックし、外枠までの大きさ・形を調整します。



角の内枠を指定します。



外枠を指定し、スターの角を整えます。



自由曲線



- 【1】 フリーハンドで、マウスでドラッグした通り自由にラインを描きます。
- 【2】 ボタンを離れた時点で終了します。

ライン



連続直線を作成します。

- 【1】 点を連続してクリックし、作図します。
- 【2】 終点を指定後、ダブルクリックで終了します。
- 【3】 図形を閉じて終了させたい場合は、**[Alt]** キーを押しながらダブルクリックします。

ベジェ

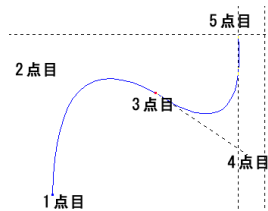
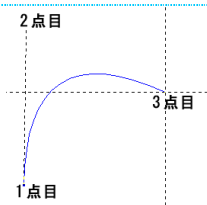


ベジェ曲線は、曲線の始点となる点と次の点の 2 点間で形成されます。

- 【1】 終点を指定後、ダブルクリックで終了します。
- 【2】 図形を閉じて終了させたい場合は、**[Alt]** キーを押しながらダブルクリックします。

1 点目から 2 点目へドラッグすると方向線が表示されます。方向線を調整しながら 3 点目を設定します。

連続した曲線を作成する場合も同様に、方向線と次の点の 2 点間で形成されます。



中心円

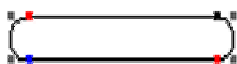


- 【2】 中心点から外枠までドラッグします。

丸棒



- 【1】  をクリックし、丸棒幅を設定します。
- 【2】 始点から終点までドラッグし、大きさ・形を調整します。



角棒

- 【1】  をクリックし、角棒幅を設定します。
- 始点から終点までドラッグし、大きさ・形を調整します。





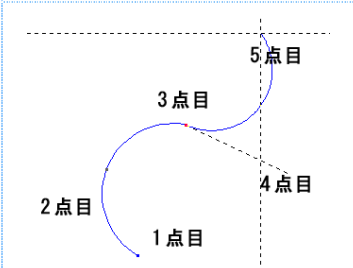
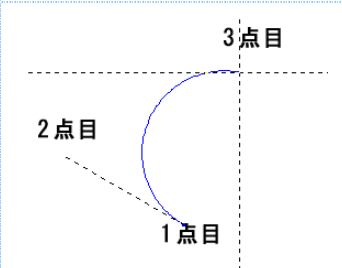
円弧

【1】 1 点目から 2 点目へとドラッグして方向線を決定します。

【2】 2. 3 点目で円弧の形状を調節します。

1 点目 2 点目で書き出しの方向が決まり 3 点目で円弧が自動作成されます。任意の円弧が出来たらクリックして決定します。

それ以降も同様の操作で連続した円弧が作成できます。



移動して閉じる

前項のライン・ベジェ・円弧において、終点を始点まで移動して終了させたい場合に使用します。図形を書いた後、ダブルクリックで終了せずに、このアイコンをクリックして下さい。



結んで閉じる

前項のライン・ベジェ・円弧において、終点と始点を結んで終了させたい場合に使用します。図形を書いた後、ダブルクリックで終了せずに、このアイコンをクリックして下さい。



空けたまま終了

前項のライン・ベジェ・円弧において、終点と始点を結ばずに終了させたい場合に使用します。図形を書いた後、ダブルクリックで終了せずに、このアイコンをクリックして下さい。



設定

作図ツールのパラメーターを設定します。

作図設定

設定

角棒 幅:

20.00

mm

丸棒 幅:

20.00

mm

多角形 角数:

3

個

スター 角数:

5

個

カド丸四角 割合:

50

%

(0 - 100)

OK

キャンセル

角棒 幅	角棒の幅を設定します。
丸棒 幅	丸棒の幅を設定します。
多角形 角数	多角形の角数を設定します。
スター 角数	スターの角数を設定します。
カド丸四角 割合	カド丸四角の角の曲線割合を設定します。

図形修正モード



ベクトルデータを修正します。

作成した図形、アウトライン化した文字についても同様に修正を加えることが出来ます。



図形修正の開始と確定

- 【1】 図形修正を行うオブジェクトを選択します。
- 【2】 [図形修正]をクリックし、図形修正バーを開きます。
- 【3】 図形修正バーから任意の修正アイコンを選択し、修正します。
- 【4】 終了する場合は、選択モードアイコンをクリックします。

範囲をドラッグで囲むと、その範囲内の点(コマンドにより図形、ハンドル)が全て選択されます。

Shiftキーを押しながら選択操作を行うと、追加選択や部分的な選択解除が行えます。

	点選択 点単位での選択を行います。点上をクリックすると点を選択されます。
	図形選択 図形単位での選択を行います。点上をクリックするとその点を含む図形が選択されます。
	ハンドル選択 ハンドル単位での選択を行います。点上をクリックするとその点とベジェ曲線ハンドル(ベジェ方向線)でつながる全ての点を選択されます。
	直角移動 指定した点に接している 2 辺が直角になるように点移動します。

**水平移動**

指定した点に接している辺が水平になるように点移動します。この時、点を結ぶ 2 辺のうち、より水平に近い辺が水平になるように移動されます。

**垂直移動**

指定した点に接している辺が垂直になるように点移動します。この時、点を結ぶ 2 辺のうち、より垂直に近い辺が垂直になるように移動されます。

**点追加**

点を追加します。追加したい場所の線上をクリックします。

**選択点削除**

選択されている点を削除します。

**折れ線化**

2 点間を折れ線化します。折れ線化する範囲の始点と終点を順に指定します。閉図形の場合、2 点間にある点の数が少ない方向が折れ線化されます。

**直線化**

2 点間を直線化します。直線化する範囲の始点と終点を順に指定すると間にある点が削除されます。閉図形の場合、2 点間にある点の数が少ない方向が直線化されます。

**ベジェ化(円弧)**

2 点間をベジェ曲線化します。ベジェ化する範囲の始点と終点を順に指定し、最後に中間点を指定すると、3 点を通る円弧の形でベジェ化されます。

**ベジェ化(区間)**

2 点間をベジェ曲線化します。2 点間を 1 区間のベジェ曲線に変形します。ベジェ化する範囲の始点と終点を順に指定し、最後に中間点を指定すると、3 点を通る円弧の形に近い形でベジェ化されます。

**円弧化**

2 点間を円弧曲線化します。円弧化する範囲の始点と終点を順に指定し、最後に中間点を指定すると、3 点を通る円弧に変形されます。

**折れ線化(方向指定)**

2 点間を折れ線化します。このコマンドは閉図形の場合で 2 点間にある点の数が多い方向を折れ線化したい場合に使用します。操作方法はベジェ化や円弧化と同様、3 点を指定します。

**直線化(方向指定)**

2 点間を直線化します。このコマンドは閉図形の場合で 2 点間にある点の数が多い方向を直線化したい場合に使用します。操作方法はベジェ化や円弧化と同様、3 点を指定します。



3 次ベジェ化

円弧曲線や 2 次ベジェ曲線の間接点を指定し、3 次ベジェに変更します。2 次ベジェ曲線は TrueType フォントで作成した文字をアウトライン化した場合などに現れます。



始点移動

始点 (青い点) を同一図形内の別の点に移動します。始点の移動先をクリックします。



図形の分割・連結

図形を連結または分割します。線上の 2 点 (曲線の間接点や方向点はエラーとなります) を順に指定します。同一閉図形内の 2 点を指定した場合は図形が分割され、異なる図形の 2 点を指定した場合は図形同士が連結されます。開図形同士を連結する場合は連結したい端の点を指定します。



図形の直線分割

ドラッグすることで描かれる線分によって閉図形が分割されます。



角丸め

角点を丸めます。あらかじめ [設定] にて、角丸めの半径を設定しておきます。



角落とし

角点を角落とします。あらかじめ [設定] にて、角落としの長さを設定しておきます。



スムージング

曲線の接点点が滑らかな線につながるように点を移動します。ベジェ曲線ハンドル (ベジェ方向線) でつながる点の中の 1 点を指定するとその点が移動されます。



選択反転

選択されている点を選択されていない状態にし、逆に選択されていない点を選択された状態にします。

複数の図形があり、ある図形を残して後は削除したいという場合、残す図形を選択した後 [選択反転] コマンドを実行し [選択点削除] を行います。



回転方向

図形の回転方向 (点順列) を変更します。このコマンドの実行中は回転方向を示す矢印が表示されます。矢印をクリックするとその点を含む図形の回転方向が変更されます。回転方向を変更することにより、塗り込みで「ワインディング」を指定している場合、塗り込み結果に変化が生じます。



選択点回転

選択されている点を回転します。ドラッグした方向が水平になるように選択点が回転します。

全ての点を選択された状態で左から右へドラッグすると、僅かに傾いた図形の傾きを微調整することが出来ます。

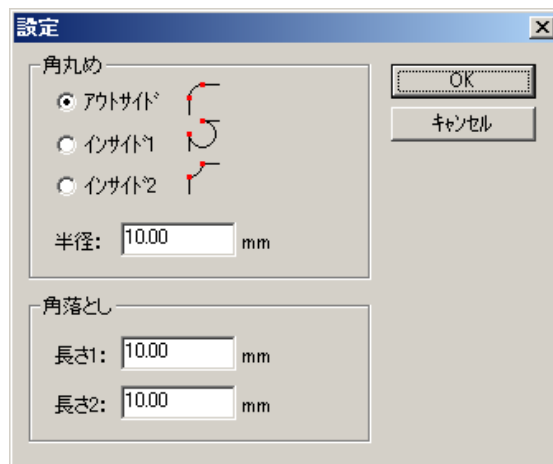


	閉図形化(移動) 開図形(ストローク)を閉図形にします。開図形の端の点を指定すると、その点がもう一方の端に移動して図形が閉じます。
	閉図形化(連結) 開図形(ストローク)を閉図形にします。開図形の端の点を指定すると、その点ともう一方の端が線で結ばれて図形が閉じます。
	クロスカーソル設定 点の移動中に表示されるクロスカーソルの角度を設定します。  《設定開始》 マウスでの設定状態になります。クロスカーソルの原点と方向を順にクリックし、クロスカーソルの角度を設定します。 《直角》 チェックを外すと、クロスカーソルの角度を別々に設定することが可能です。
	元に戻す 誤った操作を実行した直後に使用します。また、[元に戻す]コマンドを実行後、それを取り消す場合には[やり直す]を実行します。
	やり直す [元に戻す]で取り消した作業を元に戻し、[元に戻す]コマンドを実行する前の作業状態にします。
	選択移動 1 点を選択された状態でこのコマンドを実行すると点の選択が隣の点へ移動します。



設定

各ベクトル修正に必要な設定を行います。



ズームモード

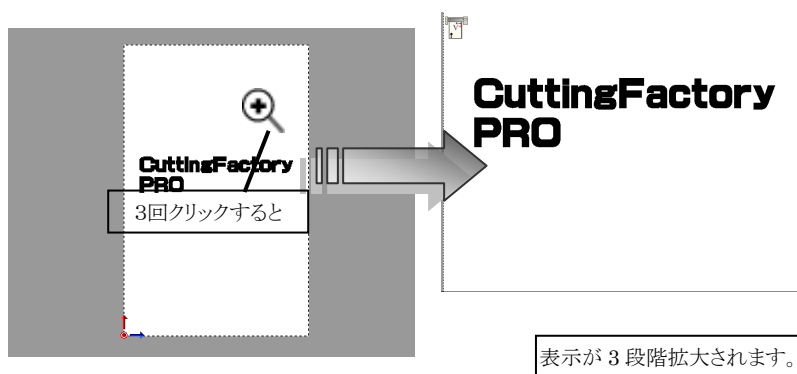


画面の表示倍率を変更するモードです。

このモードを選択した状態で作業ウィンドウ上をクリックすると、そのクリックした場所を中心点として拡大し、ドラッグして範囲指定するとその範囲を拡大して表示します。また、**[Alt]** キーを押しながらクリックすると、そのクリックした場所を中心点として縮小されます。

◆ 拡大して表示する(ズームイン)

- 【1】 操作メニューから[ズーム]を選択するとマウスポインタが になります。
- 【2】 拡大したい位置にマウスポインタを合わせてクリックします。
- 【3】 画面が拡大表示されます。



◆ ドラッグした範囲を拡大する

ズームツールで図面上をドラッグすると、選択された範囲がウィンドウいっぱいに拡大表示されます。

- 【1】 操作メニューから[ズーム]を選択します。
- 【2】 拡大したい部分を囲むようにドラッグします。
- 【3】 囲まれた部分がウィンドウいっぱいに拡大表示されます。

ハンドスクロールモード

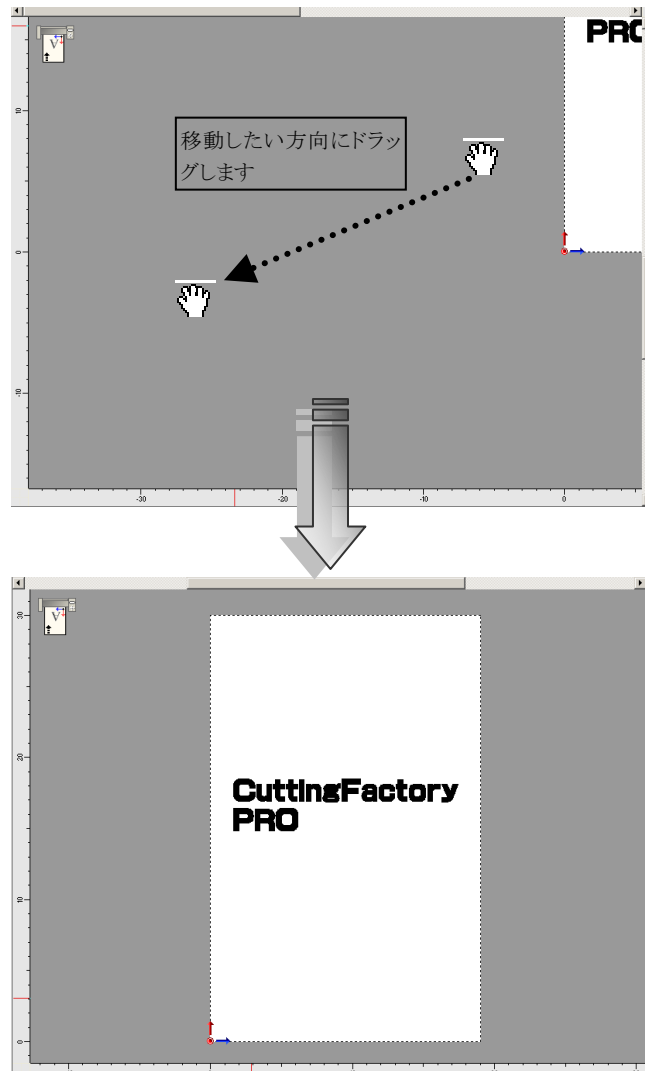


画面の表示倍率を変更した場合などに、目的のオブジェクトがウィンドウからはずれてしまうことがあります。そのような時は、移動モードを利用して、任意の位置まで図面の表示範囲を移動することが出来ます。

機能的には、スクロールバーと同じですが、スクロールバーに比べて自由な方向にスクロールできるのが特徴です。

画面からはずれた場所まで移動する

- 【1】 ハンドスクロールモードを選択すると、マウスポインタがになります。
- 【2】 図面上を移動したい方向までドラッグして下さい。



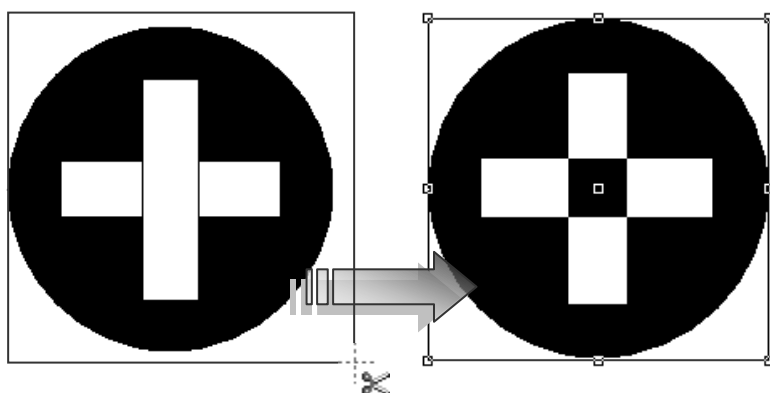
切り出しモード



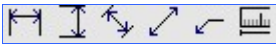
複数のオブジェクトをひとつのオブジェクトとして切り出します。また、ひとつのオブジェクト内の閉図形を切り出すと、その図形だけ独立したオブジェクトになります。

◆ 複数のオブジェクトを切り出す

- 【1】 切り出しモードを選択するとマウスポインタが  に変わります。
- 【2】 切り出すオブジェクトを全て囲むようにドラッグします。
- 【3】 切り取りが完了し、複数のオブジェクトがひとつのオブジェクトになります。



寸法線の作成



寸法線を作成する

- 【1】 作成したい寸法線のタイプのアイコンを選択します。

	水平 水平に寸法線を描きます。
	垂直 垂直に寸法線を描きます。
	斜め 任意の角度で寸法線を描きます。
	フリー 任意の位置に寸法線を描きます。
	ラベル付き 寸法を指し示す矢印を描きます。
	定規 距離を計測します。

- 【2】 マウスをドラッグして、寸法の始点と終点を指定します。
- 【3】 寸法線が作成される位置がプレビュー表示されますので、任意の位置までマウスを移動した後、クリックして下さい。
- 【4】 『寸法線の設定』ダイアログボックスが表示されますので、項目を入力し、【OK】を押して下さい。

寸法線の設定

矢先
☒ 矢先あり ☐ 矢先なし
 矢長 mm
 スタイル ☐ 線 ☒ 塗りつぶし

ラベル
☒ ラベルあり ☐ ラベルなし
 フォント MS ゴシック
 サイズ mm
 ラベル

OK
 キャンセル
 選択

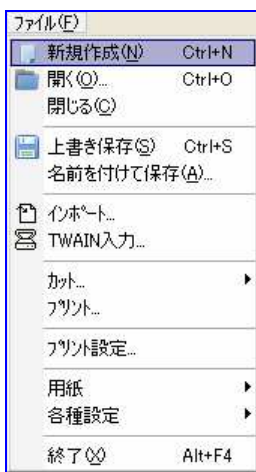
寸法を計測する

計測アイコンを選択し、寸法を計測したい箇所の始点から終点をドラッグします。
計測結果が表示されます。

第 2-2 章 ファイルメニュー

- 新規作成
- 開く
- 閉じる
- 上書き保存
- 名前を付けて保存
- インポート
- TWAIN 入力
- カット
- プリント
- プリント設定
- 用紙
- 各種設定
- 終了

新規作成

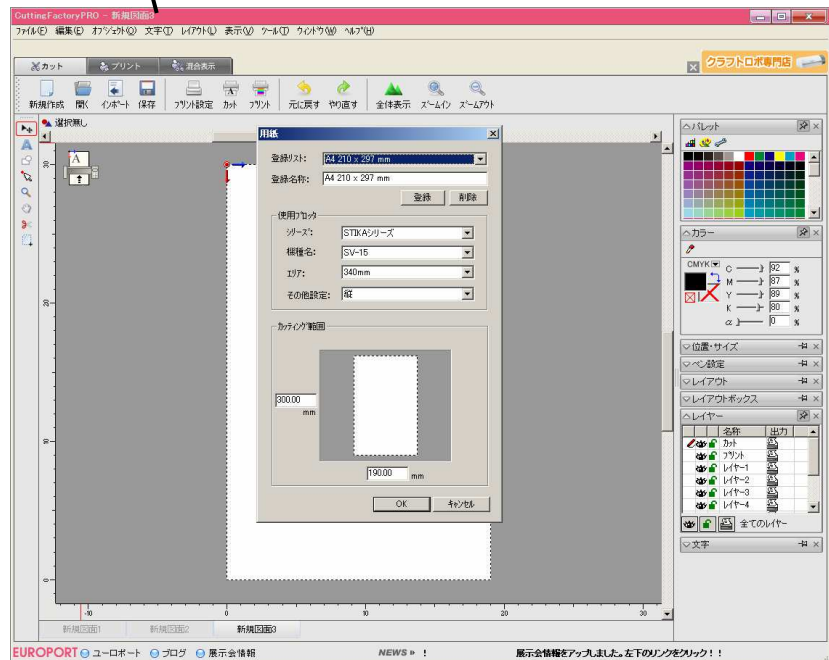


新規図面を作成します。新規図面には「新規図面 2」「新規図面 3」というように末尾に連続した番号が振られた名前が付きま。

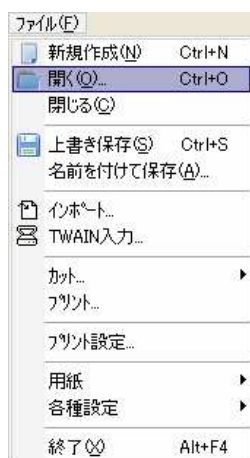
起動時に開かれる新しい図面を利用する

CuttingFactoryPRO を起動すると、「新規図面 1」という名前の新規図面が表示されます。用紙のサイズ変更が必要な場合は[ファイル]－[用紙]から変更を行って下さい。

新規図面には、一時的に「新規図面＋連番」という名前が付きま。



開く



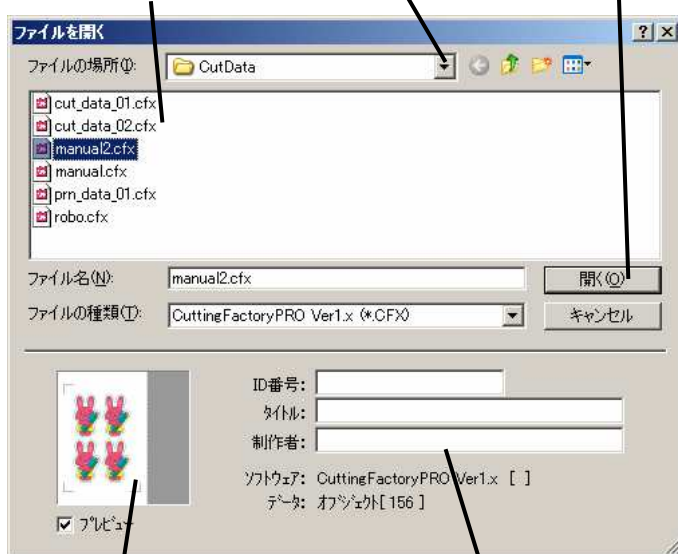
*CuttingFactoryPRO*形式のデータを開きます。

*CuttingFactoryPRO*のファイル形式は「CFX」という拡張子で保存されています。

選択可能なファイルが一覧表示されます。

フォルダを選択します。

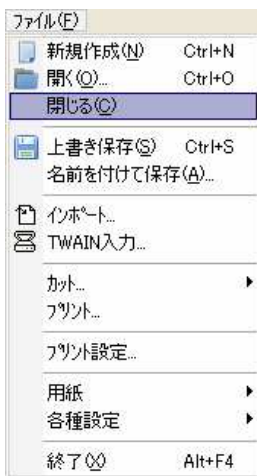
クリックすると選択されたファイルが開きます。



プレビュー機能が付加されているファイルを選択した場合、ここにファイルのプレビューが表示されます。

選択されたファイルの詳細を表示します。ただし、詳細データが登録されているファイルに限ります。

閉じる



現在開いている図面を閉じます。

開いている図面の保存がされていない場合は、保存確認のウィンドウが表示されます。



【はい】

ファイルを保存してから閉じます。この場合、上書き保存されますのでご注意ください。

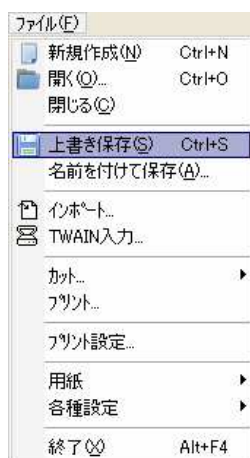
【いいえ】

ファイルを保存せずに閉じます。

【キャンセル】

閉じるコマンドを中止します。

上書き保存



注意

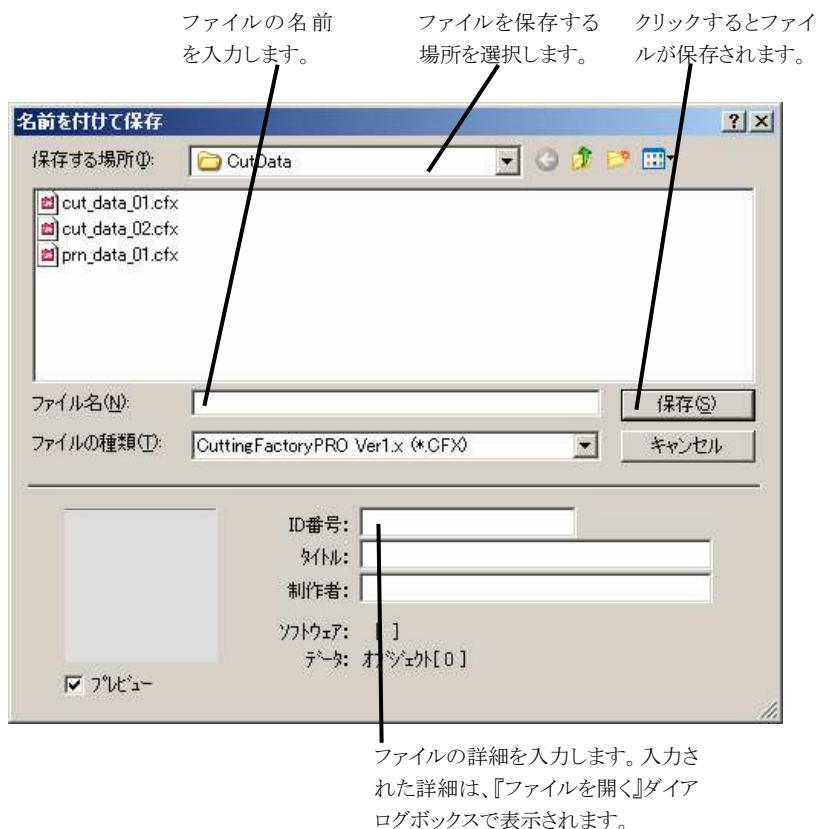
※ *CuttingFactoryPRO* 形式で保存したファイルは、*CuttingFactoryPRO* でしか開くことが出来ません。

注意

現在開いている図面を保存します。

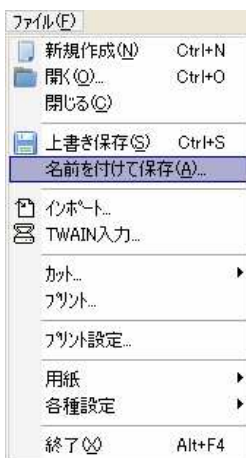
新規図面の場合には『名前を付けて保存』ダイアログボックスが表示されます。

既存の図面を開いている場合には上書き保存されます。



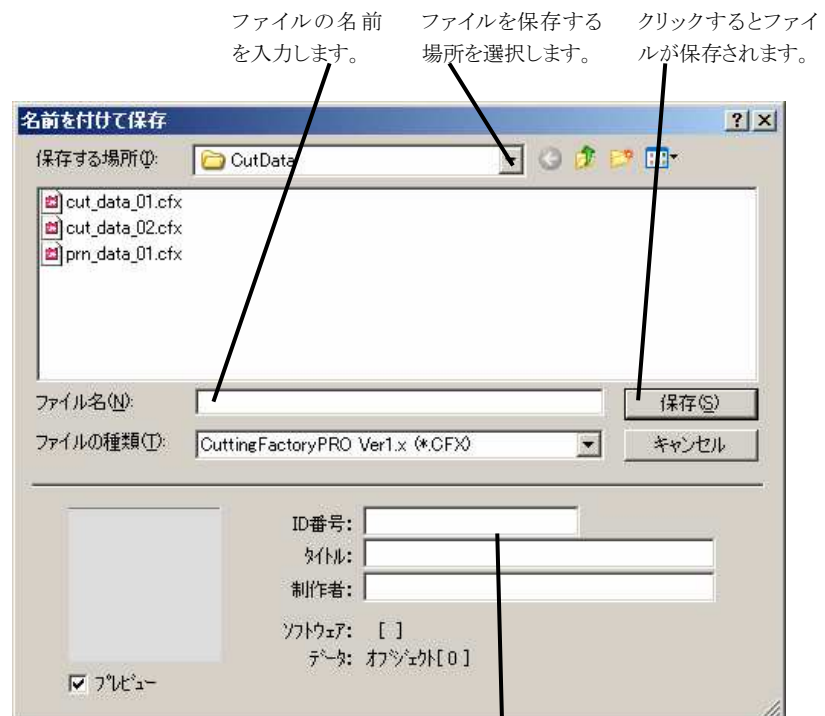
この保存コマンドでは、上書き確認の警告が出ません。上書き保存を実行すると、保存する前のデータはなくなり、新たなファイルとして保存されます。

名前を付けて保存

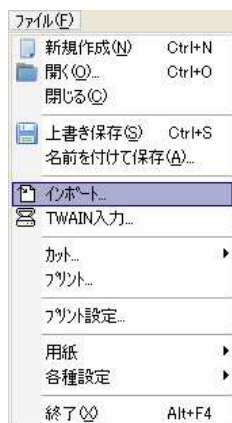


現在開いている図面に新しい名前を付けて保存します。

新規図面を保存する場合や、既存のファイルを編集した際、編集前のファイルを残しておきたい場合に使用します。



インポート



注意

「カット」レイヤータブが選択されている状態では「画像」ファイルをインポートする事は出来ません。

CuttingFactoryPRO 形式以外のファイルを読み込みます。

CuttingFactoryPRO では、CuttingFactoryPRO 形式をはじめ、EPS ファイル、画像ファイル、他社製品ファイルなど、さまざまな形式のファイルを読み込むことが出来ます。

また、インポートを実行すると、現在の図面に追加されて読み込まれます。



ファイルをインポートする

- 【1】 [ファイル]－[インポート]から、インポートするファイルの種類を選択すると『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
- 【2】 目的のファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 【3】 目的のファイルを選択し、【開く】ボタンをクリックします。
- 【4】 図面中央に配置されます。

◆ インポート可能なファイル形式 ●

- *CuttingFactoryPRO*, *pop* 形式の図面
 - ◆ CFX (*CuttingFactoryPRO* ファイル)
- 部品ファイル
 - ◆ EDX (部品ファイル)
- 画像ファイル
 - ◆ BMP (ビットマップファイル)
 - ◆ TIF (TIFF ファイル)
 - ◆ JPG・JPEG (JPEG ファイル)
 - ◆ GIF (GIF ファイル)
 - ◆ PNG (PNG ファイル)
- 他社製品のソフトで制作した外部ファイル
 - ◆ AI・EPS (イラストレータ)
 - ◆ PSD (Photoshop PSD ファイル)



イラストレータのデータをインポートする際の注意点

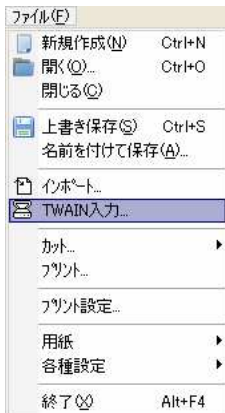
サポートしているイラストレータのバージョン

- Adobe社製 Illustrator Ver 8.0で保存したAI形式に対応しています。
- 「グラデーションメッシュ」を使用した場合に、読み込みが出来ないことを確認しております。

その他の注意点

- 文字はアウトライン化して保存して下さい。
- リンクの画像がある場合、保存する際に「配置した画像を含む」を選び、保存するファイルに埋め込んで下さい。
- Photoshop で作成したデータをイラストレータに配置する場合、EPS 形式ではなく JPEG 形式等で保存して配置して下さい。

TWAIN 入力



TWAIN で画像を読み込む

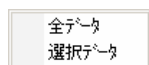
スキャナ等 TWAIN 対応機器の画像取り込みが開始されます。
取り込み終了後、画像データが図面に貼り付きます。

TWAIN 入力とは

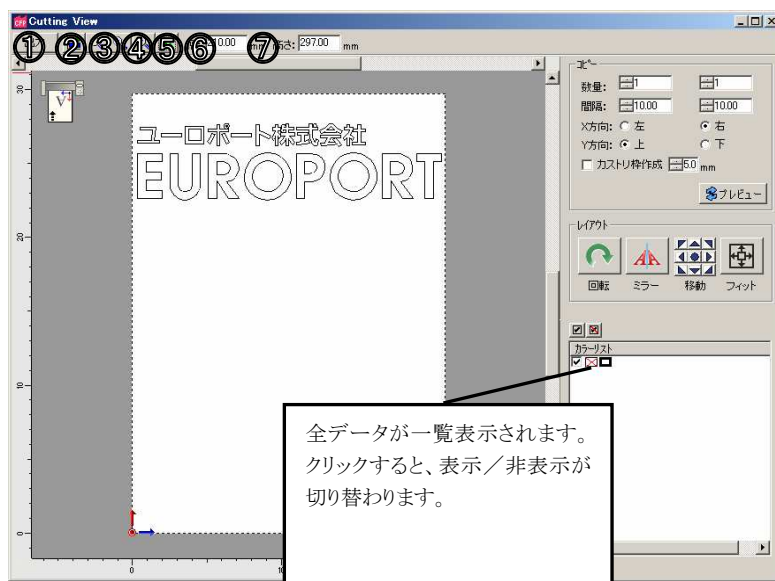
- ソフトウェアにスキャナやデジタルカメラの画像を取り込むための仕組みです。
- ほとんどのメーカーのスキャナやデジタルカメラが対応しています。
- 未対応の機器をご利用の場合は一旦画像ファイルを保存してから「インポート」を利用して画像を取り込んでください。

TWAIN 機器の設定に関しては (TWAIN 設定) を参照してください。

カット



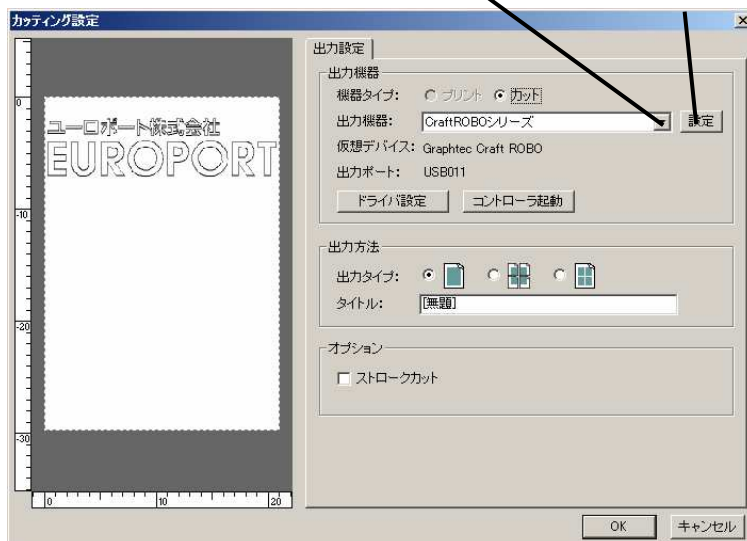
カッティングを行います。[カッティング]—[全データ]もしくは、オブジェクトを選択した状態で[カッティング]—[選択データ]を選択すると、『Cutting View』ウィンドウが表示されます。



- ① 出力 : 『カッティング設定』ダイアログボックスが表示されます。
- ② ギャザリング : オブジェクトを自動的に用紙に敷き詰めます。
- ③ 範囲拡大 : マウスでドラッグした範囲にズームして表示します。
- ④ ズームイン : 拡大表示します。
- ⑤ ズームアウト : 縮小表示します。
- ⑥ 全体表示 : 用紙全体を表示します。
- ⑦ 幅・高さ : 用紙幅・高さを設定します。

お使いのプロッタに応じて
選択してください。

プロッタについての設定
を行います。



【出力機器】

機器タイプ : 「カット」が選択されていることを確認して下さい。

出力機器 : カッティングを行う機器を設定します。

コントローラ起動 : Graphtec 社の CraftROBO 用コントローラを起動します。

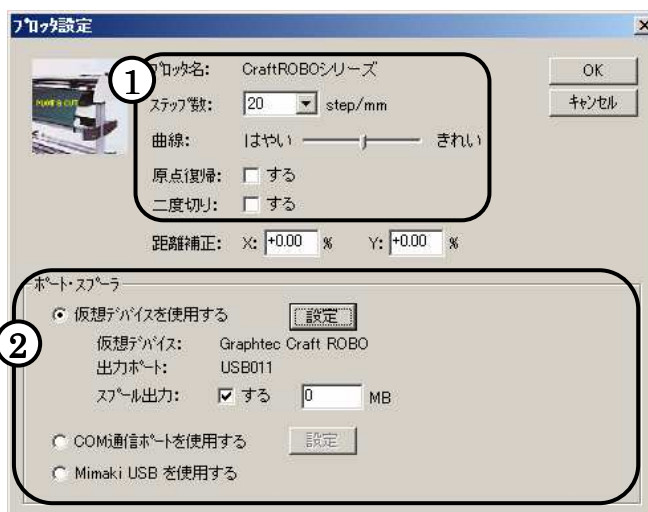
出カタイプ : 選択したタイプにより【基本】【分割】【面付け】タブが切り替わりします。

- ・基本 ... カッティングデータを一枚出力します。
- ・分割 ... 一つのデータを複数の用紙に分割して出力します。
- ・面付け ... カッティングデータを複数出力します。

タイトル : カッティングジョブのタイトルを入力します。

ストロークカット : チェックを入れると、開図形もカットします。

【設定】





「曲線」の設定は弊社で
綺麗にカットできる値に
調整した状態で出荷して
います。

①カット時のプロッタの設定

プロッタ名 : 使用するプロッタの名前が表示されます。

ステップ数 : 出力の際の、1mm 辺りのステップ数を設定します。

曲線 : 曲線をカットする際の、速度と美しさの優先度を設定します。

原点復帰 : カット終了後、ペン又はカッターを原点に戻します。

二度切り : カットの際二度切ります。

②ポート・スプーラ

出力先のポートの設定を行います。

仮想デバイスを使用する	①Mimaki CG-FX 以外を使用している場合はこちらを選んでください。 ②【設定】ボタンを押し、仮想デバイスを選びます。>「デバイスの選択」が開きます
COM 通信ポートを使用する	通常の場合は使用しません。
Mimaki USB を使用する	Mimaki CG-FX シリーズを使用し USB 接続を行っている場合はこちらを選んでください。

※ステップ数の設定について

各カッティングプロッタ毎に設定出来るステップ数があり、機種によっては固定、もしくは数種類の設定が出来る機種もあります。

カッティングプロッタの推奨ステップ数 0内はプロッタ側の設定パターン

CraftROBO シリーズ	推奨ステップ数:20(0.05)
STIKA シリーズ	推奨ステップ数:40(0.025)
CE-5000 シリーズ	推奨ステップ数:40(0. 1/0. 05/0. 025/0. 01)
GX24 シリーズ	推奨ステップ数:40(0.025)
CG-60SR シリーズ	推奨ステップ数:40(0. 1/0. 05/0. 025/0. 01)

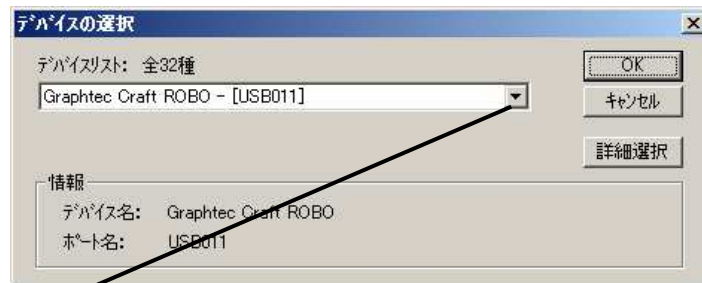
※カッティングプロッタに設定されているステップサイズと上記ステップ数が合っていない状態でカットするとカットサイズに影響しますので
ご注意下さい。

※CE-5000 シリーズを上記推奨ステップ数でご利用になる時は、カッティングプロッタ側のステップサイズを 0.025 に設定してからお使い下さい。

※1mm をステップ数で除算することでカッティングプロッタのステップサイズを算出することが出来ます。

【デバイスの選択】

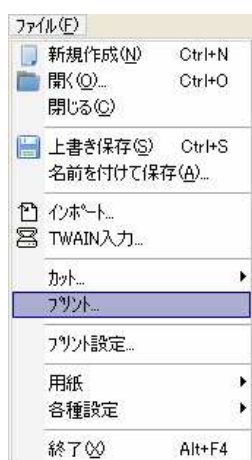
『プロッタ設定』ダイアログボックスまたは『プリンタ設定』ダイアログボックスの「ポート・スプーラ」の項目で「仮想デバイスを使用する」を選び、**【設定】**ボタンを押した場合この画面が開かれます。



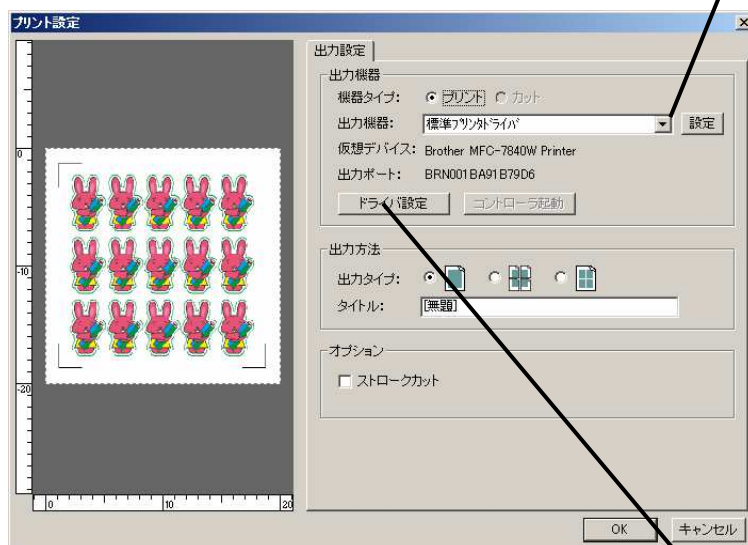
お使いのカッティングプロッタに付属している
プリンタドライバ名を選択します。

お使いのカッティングプロッタに応じたデバイスを選択します。
通常は購入されたプロッタに付属しているプリンタドライバ名を選択します。

プリント



標準プリンタドライバによる出力を行います。『プリント設定』ダイアログボックスで設定を行い、【OK】を押すと印刷が開始されます。



【出力機器】

機器タイプ : 「プリント」が選択されていることを確認して下さい。

出力機器 : 印刷を行う機器を設定します。

出力タイプ : 選択したタイプにより【基本】【分割】【面付け】タブが切り替わります。

- ・基本 ... 印刷データを一枚出力します。
- ・分割 ... 一つの印刷データを複数の用紙に分割して出力します。
- ・面付け ... 印刷データを複数出力します。

タイトル : 印刷ジョブのタイトルを入力します。

「設定」ボタンをクリックすると、下図の『印刷』ダイアログボックスが表示されます。ここでは、印刷に使用するプリンタ・印刷範囲・印刷部数を設定します。



「詳細設定」ボタンをクリックすると、下図の『プリンタ詳細設定』ダイアログボックスが表示されます。



出力形式

- **ビットマップ** … 図面に透過情報を持つデータが存在する場合、ビットマップ形式を選んで下さい。印刷にかかる時間はメタファイルより多くなります。
- **メタファイル** … ビットマップ形式より印刷にかかる時間は短縮されますが、図面に透過情報を持つデータが存在する場合、正確な印刷結果にならない可能性があります。また、カッティングプロッタのプリンタドライバを選択したときなど、アウトラインデータをプリンタに送る必要がある場合はメタファイル形式を選ぶ必要があります。

プリント設定



「プリント」で利用するプリンタドライバの設定画面を開きます。



用紙



用紙の大きさを設定します。

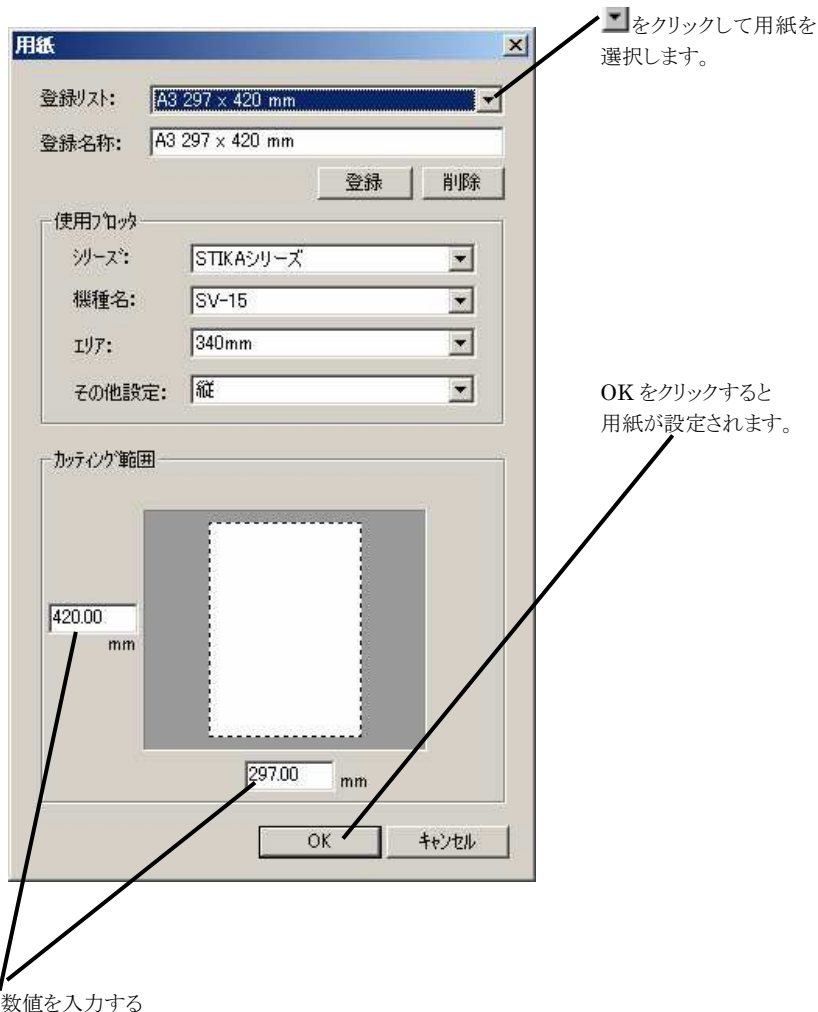
オブジェクトは図面の範囲外にも自由に配置出来ますが、実際に出力されるのは用紙の範囲内だけです。そのため、作成するデータに合わせて用紙の大きさを設定する必要があります。

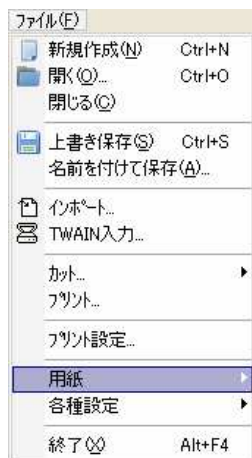
用紙サイズの設定方法には、「設定」と「範囲設定」の 2 通りの方法があります。

◆ 数値を入力して用紙設定を行う

設定ダイアログから数値を入力して用紙を設定します。

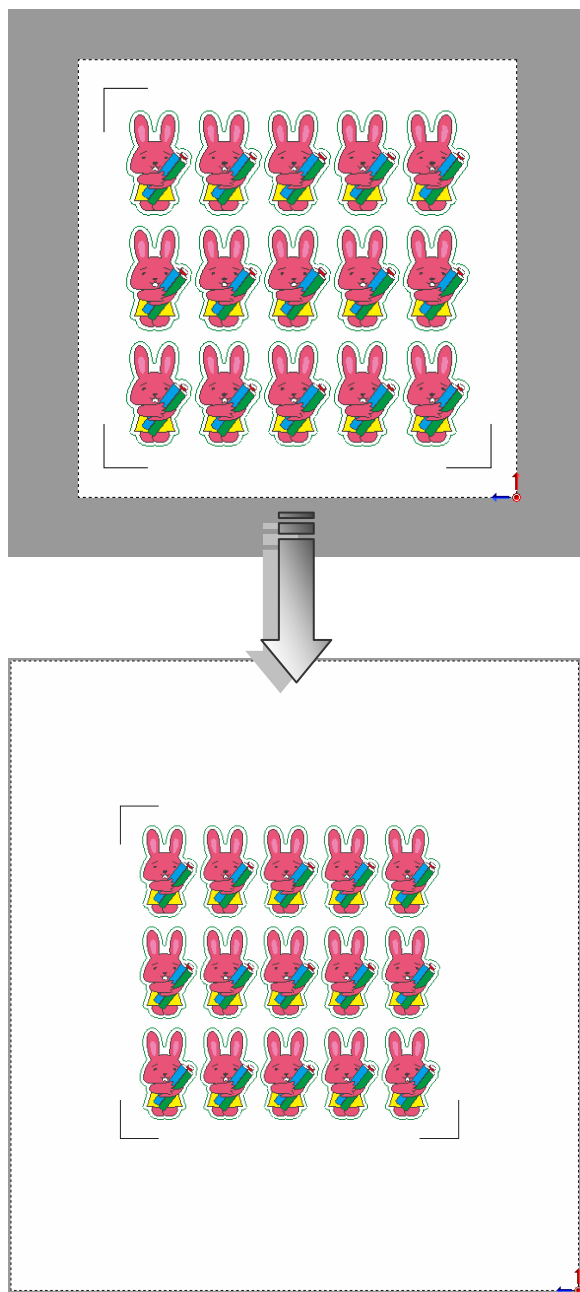
ユーザー定義の用紙を登録する場合は、次ページを参照して下さい。



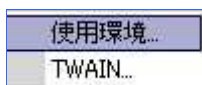


◆ 範囲設定をして用紙設定を行う

図面上で用紙サイズの範囲をドラッグして用紙サイズを設定します。



各種設定

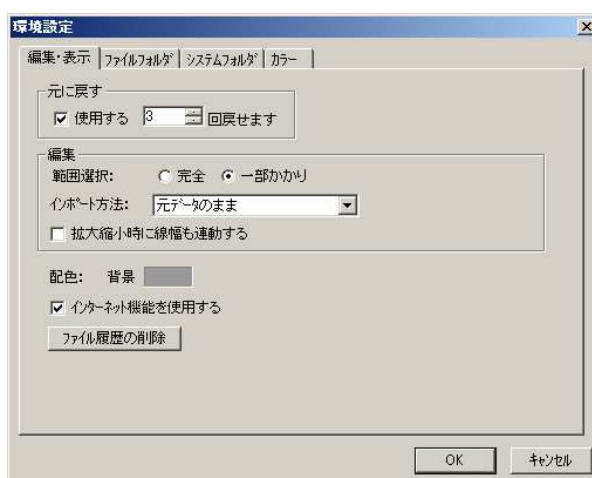


CuttingFactoryPRO の基本的な設定と、TWAIN 機器の選択をすることが出来ます。

CuttingFactoryPROの基本的な設定を行う

[各種設定]—[環境設定]を選択すると、『環境設定』ダイアログボックスが表示されます。設定を変更したら【OK】ボタンをクリックして終了して下さい。

【編集・表示】



元に戻す：「元に戻す」を使用するかどうかとその回数を設定します。1～30 回の間で設定出来ます。

範囲選択：ドラッグして範囲選択した際の、データの選択方法を設定します。「完全」を選択すると、完全に囲った図形だけが選択されます。

イラストデータの読み込み方：

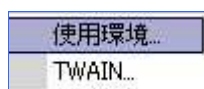
イラストデータを読み込む際に、表示倍率を変更しないか、用紙サイズに合わせて拡大縮小するか選択します。

拡大縮小時に線幅も連動する：

チェックを入れると、オブジェクトを拡大縮小した際に線幅も同時に拡大縮小します。

配色：

編集画面の背景色を設定します。



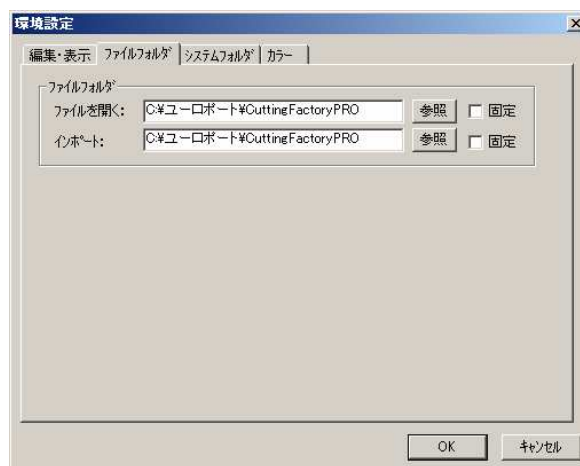
インターネット機能を使用する：

チェックをはずすと、ニュースなどのデータをインターネットから自動的に取得しなくなります。

ファイル履歴の削除：

過去に利用したファイル履歴を削除します。

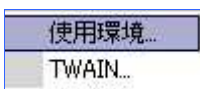
【ファイルフォルダ】



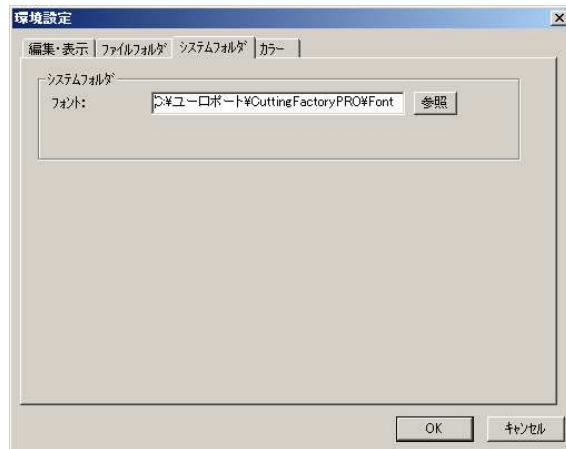
ここでは、読み込みや保存を行うフォルダを設定します。

ファイルを開く： [ファイルを開く][配置]のそれぞれの実行時に最初に開くフォルダを設定します。

インポート： [インポート]の実行時に最初に開くフォルダを設定します。



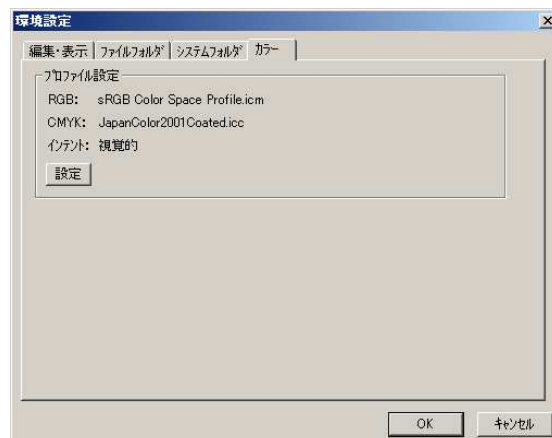
【システムフォルダ】



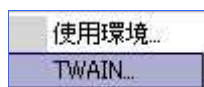
フォント : フォントが格納されているフォルダを選択します。

【カラー】

CuttingFactoryPRO で RGB・CMYK の色変換を行う際のカラープロファイルの設定を行います。



- インテントの種類
 - ◆ 視覚的: 人の目に色が自然に映るように、色間の視覚的な関係を保護します。
 - ◆ 相対的色彩: 変換元のカラースペースの最大ハイライトと、変換先のカラースペースの最大ハイライトを比較し、その差だけシフトして全ての色を変換します。
色域外の色は、変換先カラースペース内で再現可能な近似色に変換されます。
 - ◆ 彩度: 画像の鮮明な色を再現することを重視します
 - ◆ 絶対的色彩: 変換先の色域に収まるカラーには変化が生じません。色域から外れるカラーはクリップされます。このマッチング方法は、用紙の色が印刷される色にどのような影響を及ぼすかをプレビューする場合に特に効果的です。

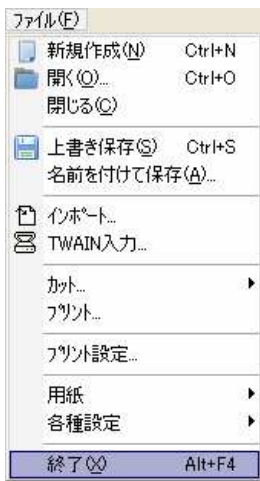


TWAIN 機器の設定を行う

[各種設定]—[TWAIN]を選択すると、『ソースの選択』ダイアログボックスが表示され、選択可能な TWAIN 機器の一覧が表示されます。お使いの TWAIN 機器を選択後、【選択】ボタンをクリックします。



終了



CuttingFactoryPRO を終了します。

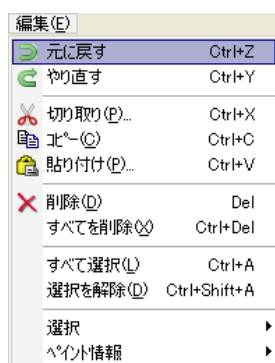
編集集中の図面がある場合には、保存確認のウィンドウが開きます。保存して終了する場合は【はい】、保存しない場合は【いいえ】、終了を取り止める場合は【キャンセル】をクリックします。



第 2-3 章 編集メニュー

- 元に戻す
- やり直す
- 切り取り・コピー・貼り付け
- 削除
- すべてを削除
- すべて選択
- 選択を解除
- 選択
- ペイント情報

元に戻す



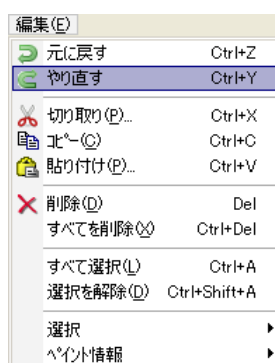
行った操作をする前の状態に戻します。

一度[元に戻す]を選択すると、直前の操作が取り消されます。

続けて[元に戻す]を選択すると、さらに前の操作が取り消されます。

元に戻すコマンドでさかのぼれる回数は、[ファイル]－[環境設定]にて設定することができます。

やり直す



[編集]－[元に戻す]で取り消した操作を復帰させます。

切り取り・コピー・貼り付け

編集(E)	
 元に戻す	Ctrl+Z
 やり直す	Ctrl+Y
 切り取り(P)...	Ctrl+X
 コピー(C)	Ctrl+C
 貼り付け(P)...	Ctrl+V
 削除(D)	Del
すべてを削除(O)	Ctrl+Del
すべて選択(L)	Ctrl+A
選択を解除(D)	Ctrl+Shift+A
選択	▶
ペイント情報	▶

- ・切り取り : 図面からのオブジェクトの切り取ります。
- ・コピー : 図面上からクリップボードへコピーします。
- ・貼り付け : クリップボードから図面上へ貼り付けます。

オブジェクトをコピーする

- 【1】 コピーするオブジェクトを選択ツールで選択します。
- 【2】 [編集]－[コピー]を選択し、クリップボードにコピーします。
- 【3】 [編集]－[貼り付け]を選択するとコピーしたオブジェクトが配置されます。

編集(E)	
 元に戻す	Ctrl+Z
 やり直す	Ctrl+Y
 切り取り(P)...	Ctrl+X
 コピー(C)	Ctrl+C
 貼り付け(P)...	Ctrl+V
 削除(D)	Del
すべてを削除(O)	Ctrl+Del
すべて選択(L)	Ctrl+A
選択を解除(D)	Ctrl+Shift+A
選択	▶
ペイント情報	▶

オブジェクトを移動する

- 【1】 移動するオブジェクトを選択ツールで選択します。
- 【2】 [編集]－[切り取り]を選択します。
- 【3】 [編集]－[貼り付け]を選択するとオブジェクトが配置されます。

オブジェクトを貼り付ける

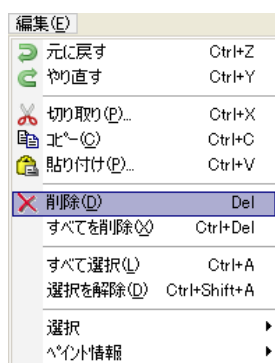
- 【1】 あらかじめ CuttingFactoryPRO や他のアプリケーションで、クリップボードにデータをコピーしておきます。
- 【2】 [編集]－[貼り付け]を選択するとオブジェクトが配置されます。

※クリップボードにデータがない場合や互換性のないデータの場合には選択できません。

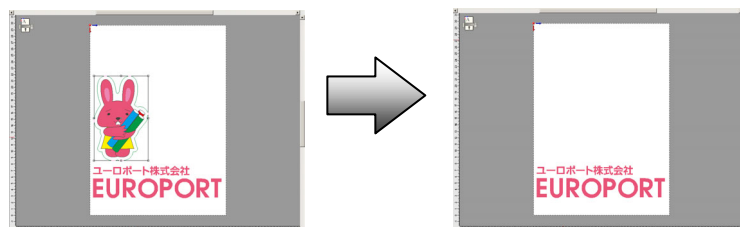


貼り付けを実行すると、同じ図面上のデータの場合は、コピーしたデータの前面に、外部のデータの場合は、左下の原点の位置に貼り付きます。

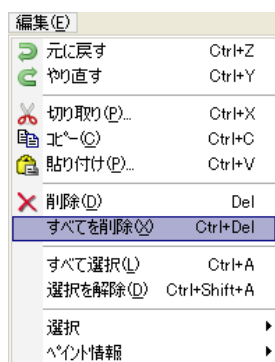
削除



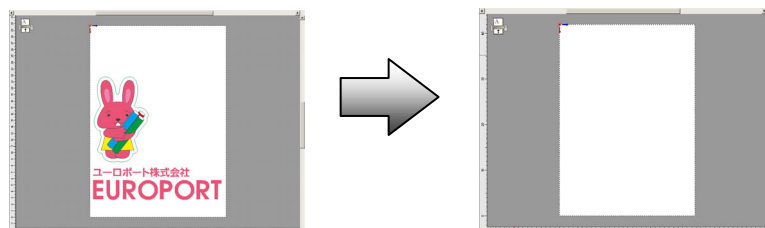
選択したオブジェクトの削除を実行します。また、キーボードの **Del** キーで削除しても同じ結果となります。



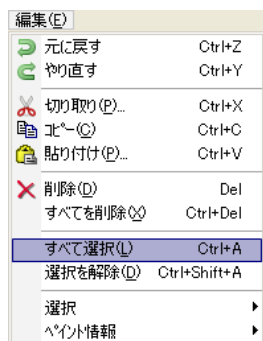
すべてを削除



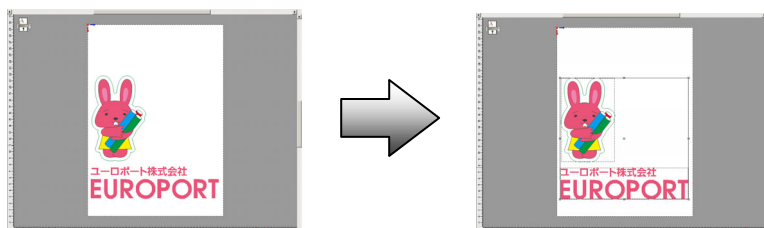
図面上のオブジェクトをすべて削除します。



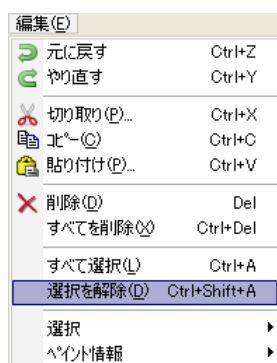
すべて選択



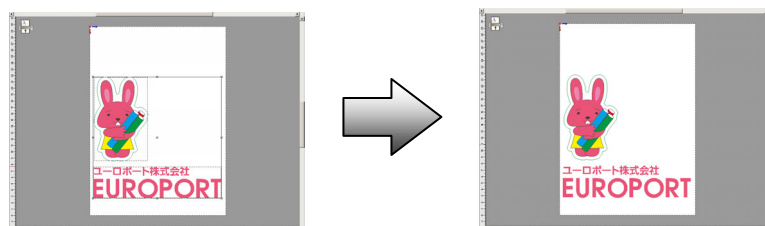
図面上にある全てのオブジェクトが選択されます。



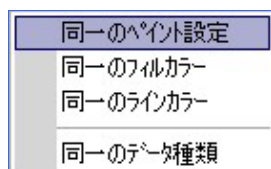
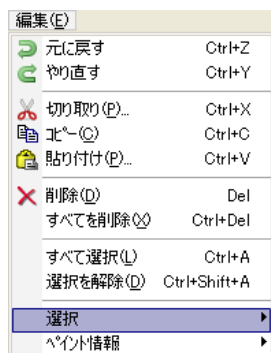
選択を解除



選択されているオブジェクトを全て解除します。



選択



ヒント

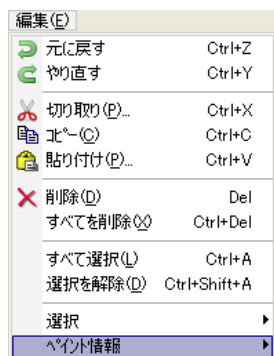
ステータスバーに、データの
種類が表示されていま
す。

塗りこみ色や輪郭色、データ形式が同じオブジェクトを全て選択します。

◆ 同じ設定のオブジェクトを全て選択する

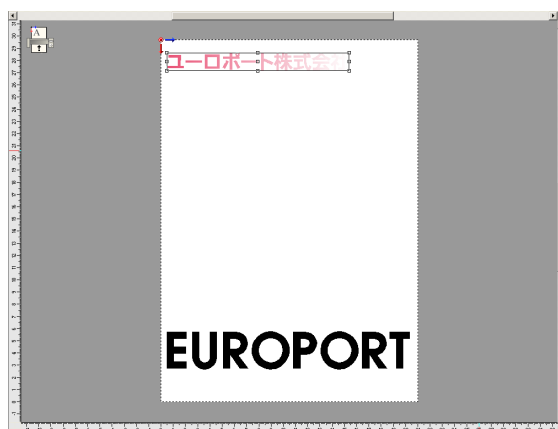
- 【1】 基準となるオブジェクトを選択します。
- 【2】 [編集]－[選択]から、任意のメニューを選択します。
- 【3】 選択したメニューに応じて、選択したオブジェクトと以下の設定が同じオブジェクトが全て選択されます。
 - ◆ 同一のペイント設定 : 塗りこみ色および輪郭色
 - ◆ 同一のフィルカラー : 塗りこみ色
 - ◆ 同一のラインカラー : 輪郭色
 - ◆ 同一のデータ種類 : データ種類

ペイント情報のコピー・ペースト

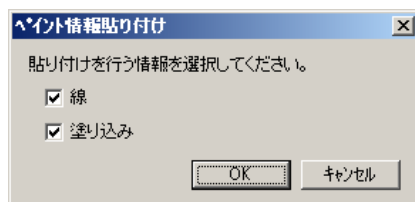
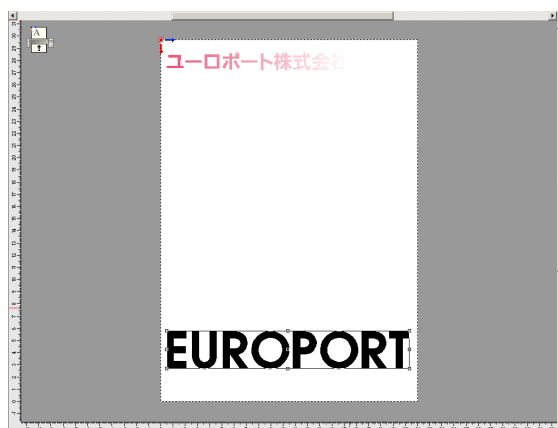


選択されているオブジェクトのペイント情報をコピー・ペーストします。

【1】 基準となるオブジェクトを選択して「ペイント情報」―「コピー」とクリックします。

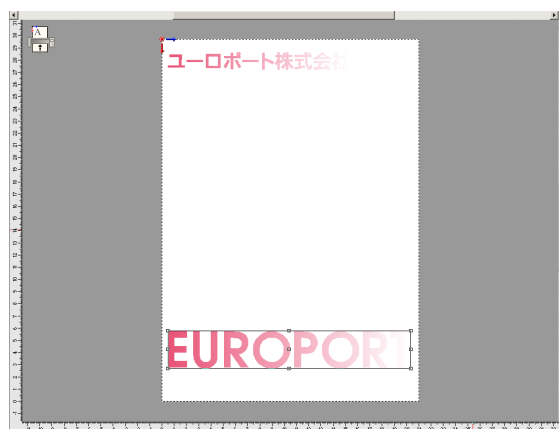


【2】 ペースト対象のデータを選択して「ペイント情報」―「ペースト」とクリックします。



※上記のダイアログが表示され、ペーストする情報を決定します。

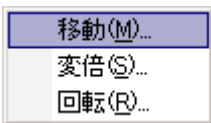
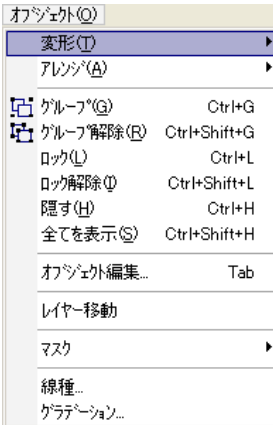
【3】対象データに「ペイント情報」がペーストされました。



第 2-4 章 オブジェクトメニュー

- 変形
- アレンジ
- グループ・グループ解除
- ロック・ロック解除
- 隠す・全てを表示
- オブジェクト編集
- レイヤー移動
- マスク
- 線種
- グラデーション

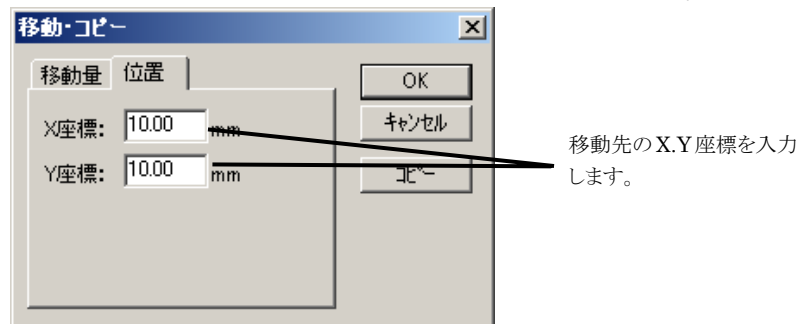
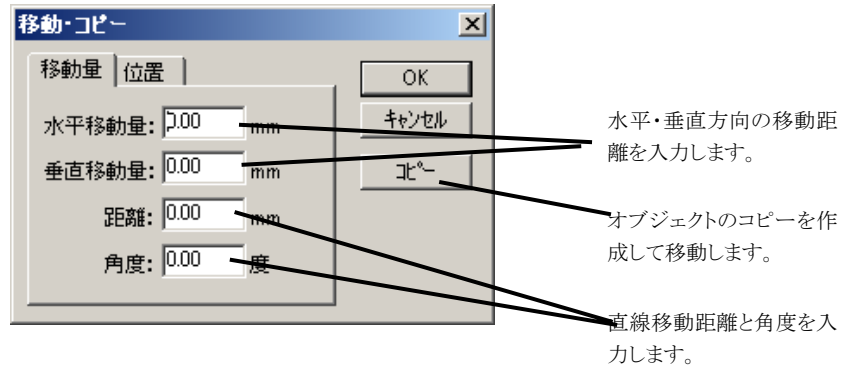
変形



選択したオブジェクトを移動・変倍・回転することが出来ます。

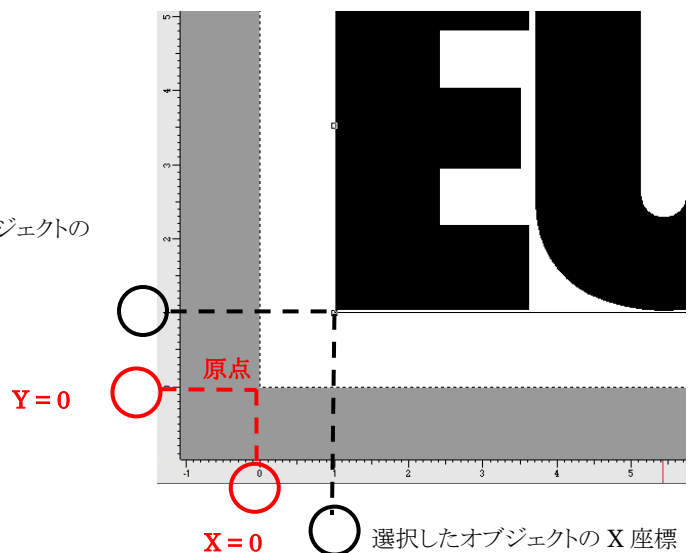
オブジェクトを移動する

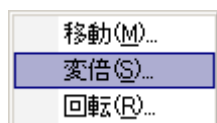
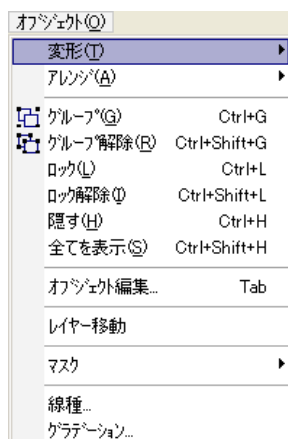
[変形]—[移動]を選択すると、『移動・コピー』ダイアログボックスが開きます。移動量を入力してオブジェクトを移動します。



【位置】タブを開いた時には、現在の座標が表示されています。

選択したオブジェクトの
Y 座標



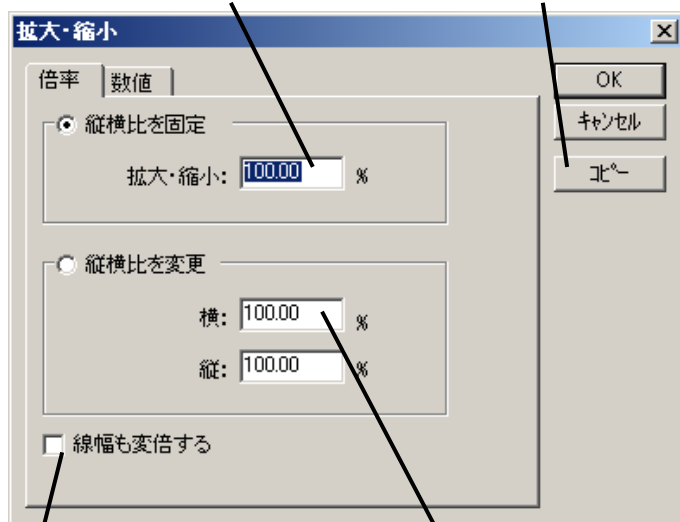


オブジェクトを拡大・縮小する

[変形]—[変倍]を選択すると、『拡大・縮小』ダイアログボックスが開きます。変倍数値を入力してオブジェクトを拡大または縮小します。

縦横比を固定して拡大・縮小の倍率を入力します。

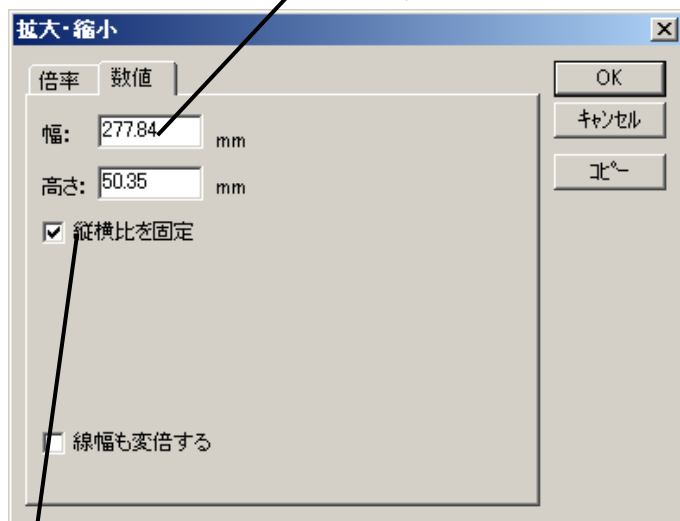
オブジェクトのコピーを作成して変倍します。



チェックを入れると、線幅も同時に変倍します。

縦横それぞれに拡大・縮小の倍率を入力します。

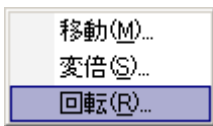
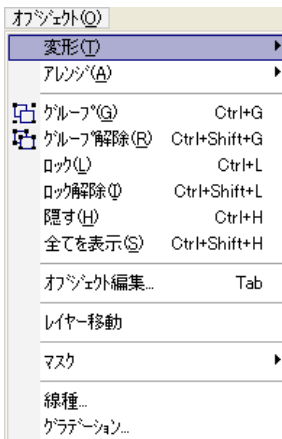
幅・高さを mm 単位で指定します。



縦横比を固定して拡大・縮小します。幅か高さのどちらかを入力すると等倍比の変倍サイズが自動で計算され、結果数値が表示されます。

オブジェクトを回転する

[変形]—[回転]を選択すると、『回転』ダイアログボックスが開きます。



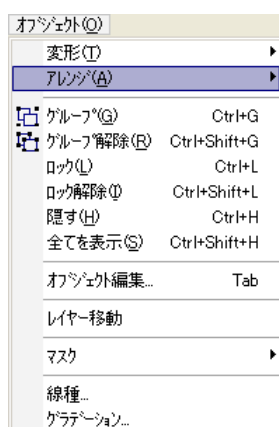
角度 : オブジェクトを回転する角度を設定します。

方法 : 選択したオブジェクトが複数ある場合に、それぞれのオブジェクトを回転するか、オブジェクト全体を回転するか選択します。

原点 : 回転中心を、選択したオブジェクトの左下にするか、中心にするか選択します。

コピー : オブジェクトを複製してから回転します。

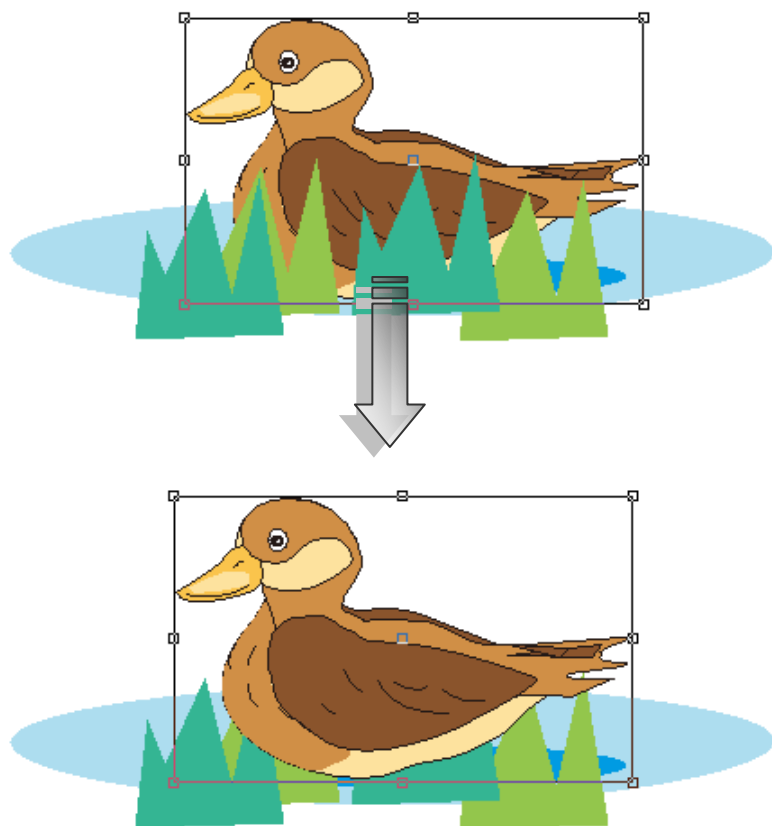
アレンジ



オブジェクトが重なった場合に、どれを上に表示するかは、重ね順によって決まります。ここでは、この重ね順を変更することが出来ます。

オブジェクトを一番前に出す

オブジェクトを選択し、[アレンジ]－[最前面へ]を選択すると、選択したオブジェクトを全てのオブジェクトの前面に配置します。



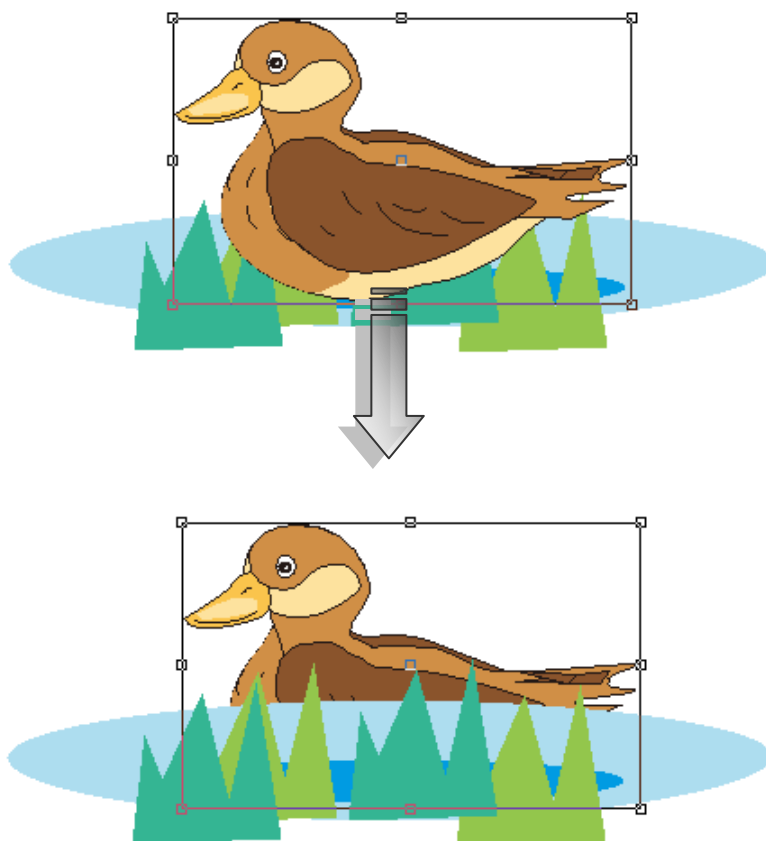
オブジェクトを 1 つ前に出す

オブジェクトを選択し、[アレンジ]－[前面へ]を選択すると、選択したオブジェクトを 1 つ前に配置します。

◆ オブジェクトを一番後ろに送る

	最前面へ	Ctrl+Shift+F
	前面へ	Ctrl+F
	背面へ	Ctrl+B
	最背面へ	Ctrl+Shift+B

オブジェクトを選択し、[アレンジ]―[最背面へ]を選択すると、選択したオブジェクトを全てのオブジェクトの背面に配置します。

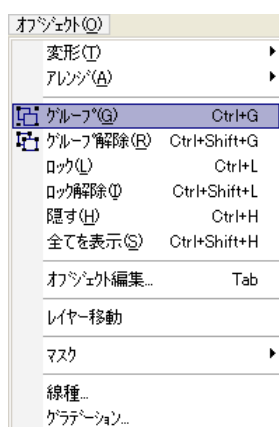


	最前面へ	Ctrl+Shift+F
	前面へ	Ctrl+F
	背面へ	Ctrl+B
	最背面へ	Ctrl+Shift+B

◆ オブジェクトを 1 つ後ろに送る

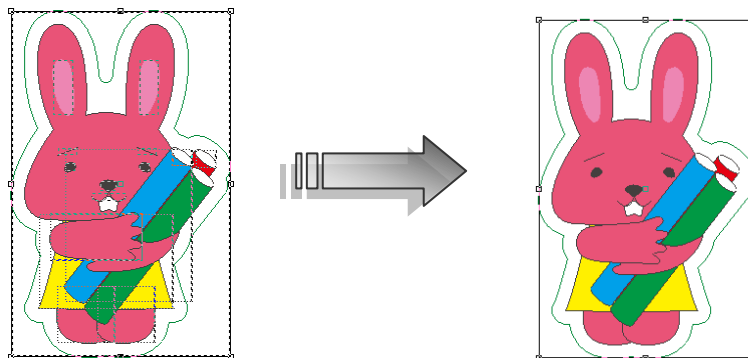
オブジェクトを選択し、[アレンジ]―[背面へ]を選択すると、選択したオブジェクトを 1 つ後ろに配置します。

グループ・グループ解除

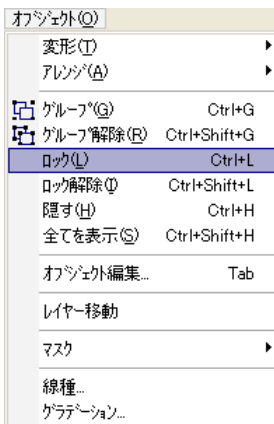


複数のオブジェクトを選択した状態で[グループ]を選択すると、複数のオブジェクトをまとめて 1 つのオブジェクトとして扱うことが出来ます。この操作をグループ化と呼びます。

グループを解除する場合は、グループ化したオブジェクトを選択し、[オブジェクト]－[グループ解除]を選択します。



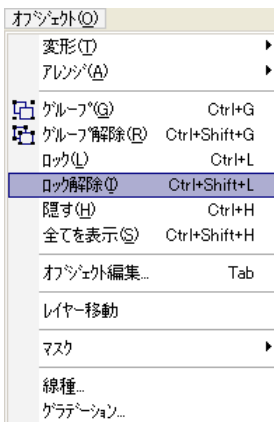
ロック・ロック解除



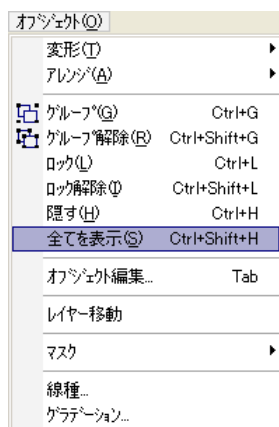
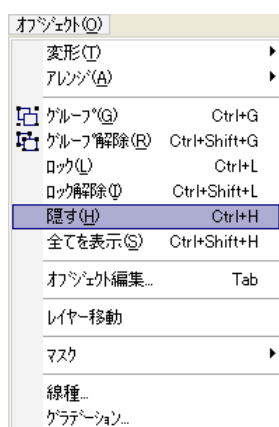
オブジェクトを選択した状態で[ロック]を選択すると、選択したオブジェクトにロックがかかり、選択や編集が出来ない状態になります。

オブジェクトを配置する目印のガイドラインを描いた後に、ロックを設定して、移動できないようにするなどの使い方も出来ます。

[ロック解除]を選択すると、ロックが設定されている全てのオブジェクトのロックが解除されます。



隠す・全てを表示

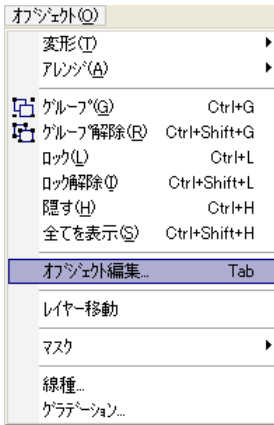


[隠す]を実行すると、選択したオブジェクトが一時的に非表示になり、選択・編集が出来なくなります。複雑な図面を作成する場合に便利です。

[全てを表示]を実行すると、[隠す]状態になっていた全てのオブジェクトが表示されます。



オブジェクト編集



選択したオブジェクトの編集を行います。『オブジェクト編集』ダイアログボックスが表示されますので、変更が終了したら【OK】ボタンをクリックして下さい。

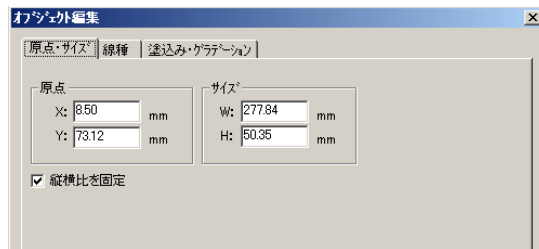
画像を選択している場合は、「線種」「塗り込み・グラデーション」のタブは表示されません。

【原点・サイズ】

原点 : オブジェクトの左下の座標を設定します。

サイズ : オブジェクトの大きさ(W:幅、H:高さ)を設定します。

縦横比を固定 : チェックを入れると、「サイズ」を変更した際に、縦横比が変わらないようになります。



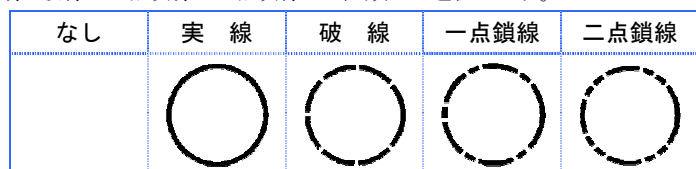
【線種】

ペンの種類を設定します。



① 線種

なし・実線・破線・一点鎖線・二点鎖線の5種類から選択します。



「スタイル」から、破線・一点鎖線・二点鎖線の線部と空白部の長さを設定できます。

② 線幅

線の幅を設定します。mm 単位で数値を入力します。

線幅を 0mm に設定すると、画面、プリンタ等で最も細い線で表示されます。

③ ジョイント

ジョイントのスタイルを設定します。マイター、ラウンド、ベベルの中から選択して下さい。

マイター	ラウンド	ベベル
		

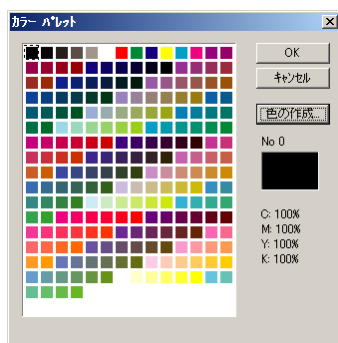
《マイターリミット》

線分が鋭角に接続した場合、マイタージョイントによって接続点をはるかに超えて伸長してしまう場合があります。このように伸長しすぎた際、ある一定限度で切り落とすための制限値を設定します。

④ キャップ

キャップ(線端)のスタイルを設定します。スクエア、ラウンド、フラットの 3 種類の中から選択して下さい。

スクエア	ラウンド	フラット
		

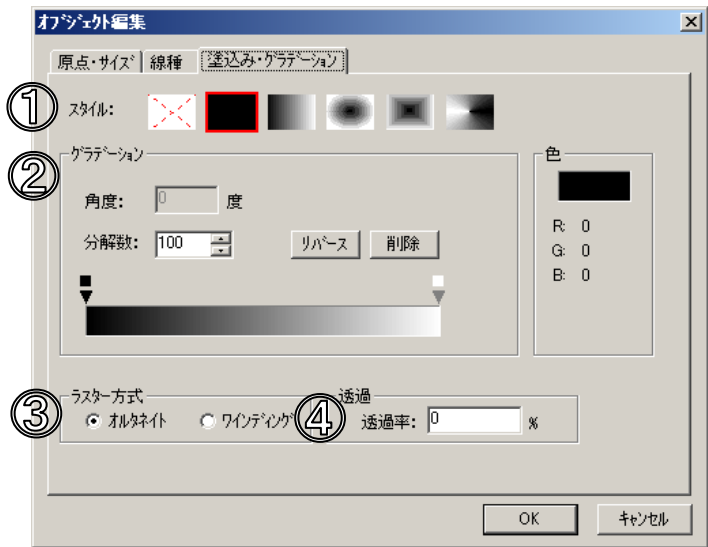
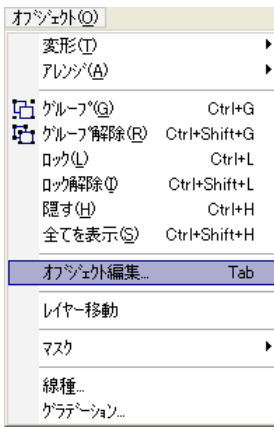


色のエリアにある長方形をクリックすると、カラーパレットが開きます。希望の色を選択し、【OK】をクリックします。

パレットにない色を作成する時は、「色の作成」をクリックして下さい。

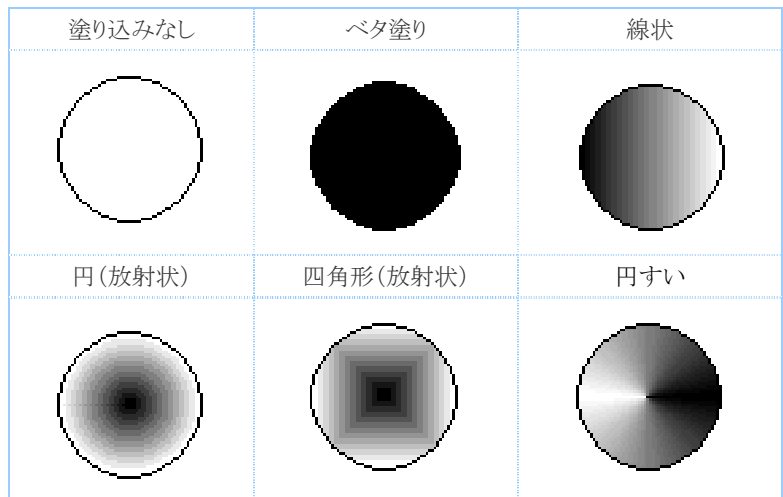
【グラデーション】

ベタ塗りやグラデーションの設定をします。

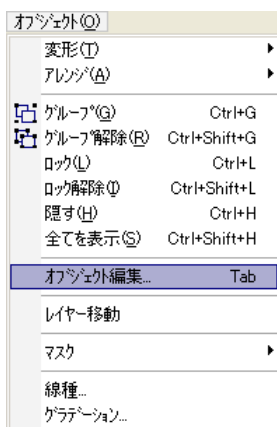


① スタイル

塗り込み・グラデーションのスタイルを選択します。



ベタ塗りを選択した場合には、④の透過率を設定できます。0%で完全不透明、100%で完全透明になります。



② グラデーション

グラデーションの設定には、スタイルの他、色・角度・分解数など、いくつかの設定項目があります。

《角度》

線状グラデーションと円すいグラデーションの角度を設定します。

《リバース》

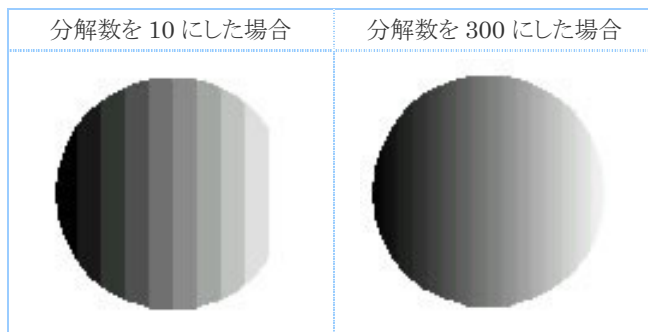
開始点と終了点および中間点の色を入れ替えます。

《削除》

選択したグラデーション指示色を削除します。

《分解数》

グラデーションの分解数を設定します。グラデーション分解数の数値が高い場合、なめらかな色変化が実現されますが、画面表示・印刷の処理速度が低下します。



《グラデーションバー》

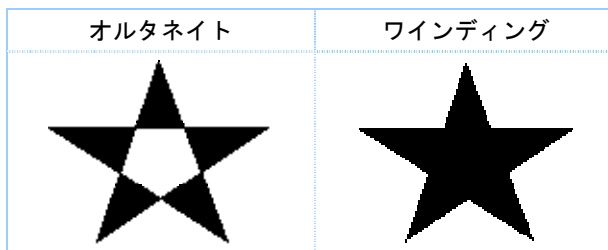


グラデーションの色・切り替え位置を指定します。

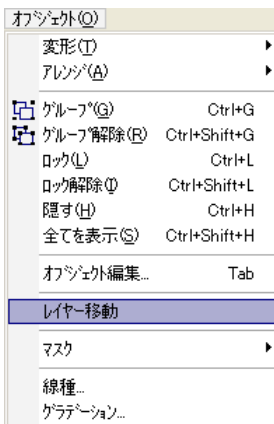
色を変更する場合、カラーパレットから任意の色を選択し、グラデーション指示色の■の部分をクリックします。グラデーション位置を変更する場合は、任意のグラデーション指示色の▼の部分をクリックし、移動したい位置でクリックします。バーの部分をクリックすると、グラデーション色を追加することが出来ます。

③ ラスター方式

塗り込み方式を選択します。



レイヤー移動



選択したオブジェクトが属しているレイヤーを移動します。

◆ レイヤーを移動する

レイヤー1にあるオブジェクトのうち、選択したオブジェクトのみレイヤー2に移動する例について説明します。

- 【1】 レイヤーウィンドウからレイヤー2を選択し、編集対象レイヤーに設定します。

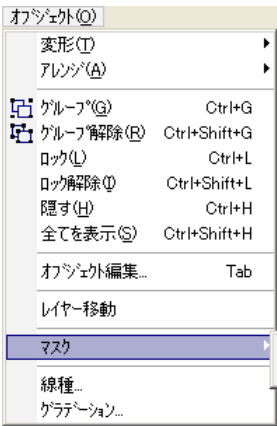


- 【2】 レイヤー移動するオブジェクトを選択します。



- 【3】 [オブジェクト]－[レイヤー移動]を選択します。
 【4】 選択したオブジェクトがプリントからレイヤー2に移動しました。

マスク



文字や図形などの塗り込みの形に合わせて画像データを貼り付けることが出来ます。

文字と画像でマスク処理をする

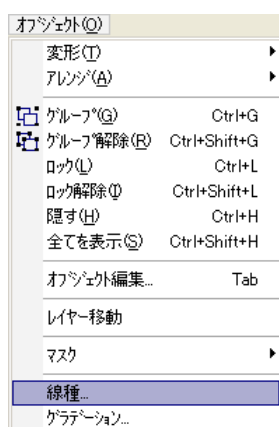
- 【1】 文字や図形の塗り込みに使用する画像データとマスクをかけるオブジェクトを重ねて配置し共に選択して下さい。この時、マスクをかけるオブジェクトを一番上に配置して下さい。
- 【2】 [オブジェクト]－[グループ]を選択して、「グループ」オブジェクトが作成されたことを確認します。
- 【3】 「グループ」オブジェクトを選択した状態で、[オブジェクト]－[マスク]－[作成]を選択すると「マスク」データが作成されます。

マスクコマンド実行前の画像と文字列	マスクコマンド実行後の画像
	

マスクを解除する

[オブジェクト]－[マスク]－[解除]を選択すると、マスク処理のかかっていたオブジェクトが解除され、マスクをかける前の状態に戻ります。

線種

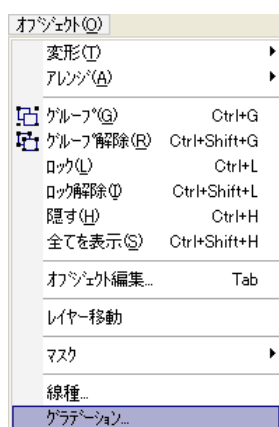


『オブジェクト編集』ダイアログボックスが開き、線種の変更をすることが出来ます。

(本章「オブジェクト編集」参照)

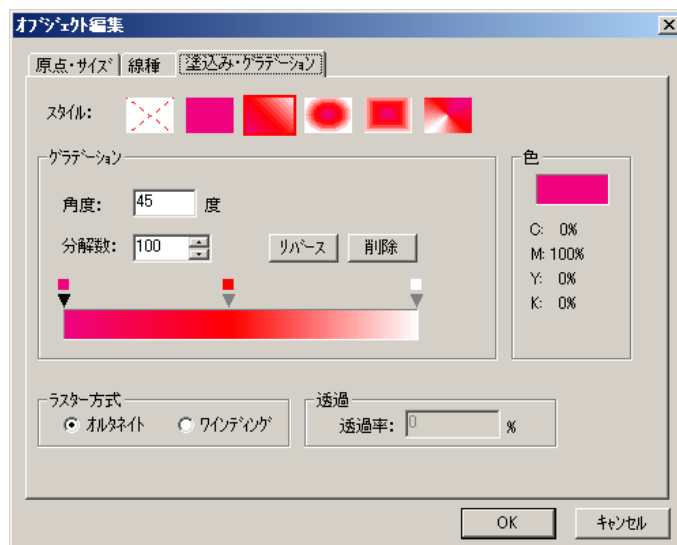


グラデーション



『オブジェクト編集』ダイアログボックスが開き、グラデーションの設定が出来ます。

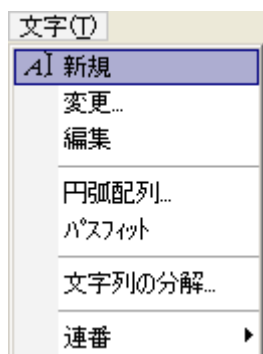
(本章「オブジェクト編集」参照)



第 2-5 章 文字メニュー

- 新規
- 変更
- 編集
- 円弧配列
- パスフィット
- 文字列の分解

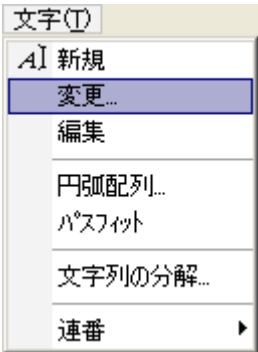
新規



文字を作成します。

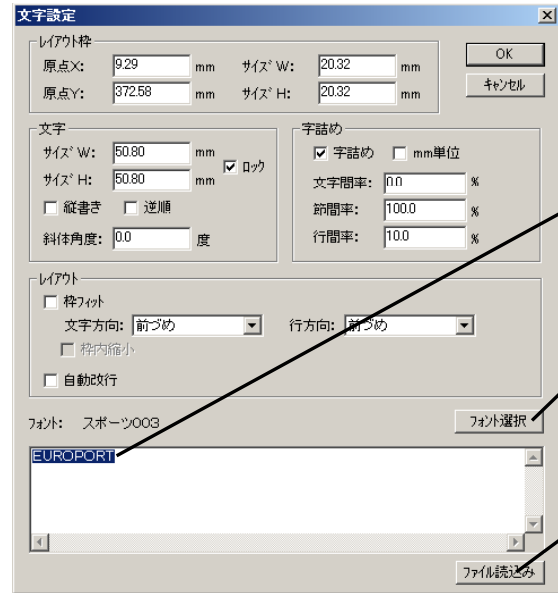
(第1章 [編集モード]—[文字入力] 参照)

変更



すでに作成されている文字列の設定を変更します。[文字]－[変更]を選択すると『文字設定』ダイアログボックスが開きます。

文字の書式を変更する



【レイアウト枠】

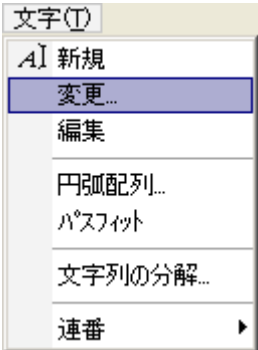
原点:レイアウト枠の左下の座標を設定します。
サイズ:レイアウト枠の W(幅)と H(高さ)を設定します。

【文字】

「サイズ」 : 一つの文字の W(幅)と H(高さ)を設定します。
縦書き : 文字列を縦書きにします。
逆順 : 文字列を逆の順番で配置します。
斜体角度 : -85° ～85° の範囲で文字の斜体角度を設定します。

【字詰め】

字詰め : 字詰め指定が有効になります。
mm 単位 : 文字間率・節間率・行間率を、mm 単位指定にします。
文字間率 : 文字間隔を設定します。
節間率 : 全角スペースの幅を設定します。
行間率 : 行間の高さを設定します。



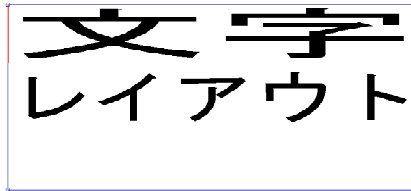
【レイアウト】

枠フィット : レイアウト枠に文字をフィットさせます。

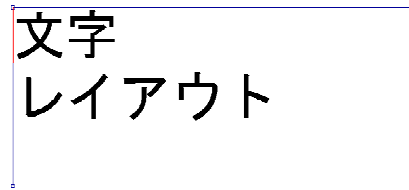


文字方向 : 文字を横方向にどう配置するか選択します。

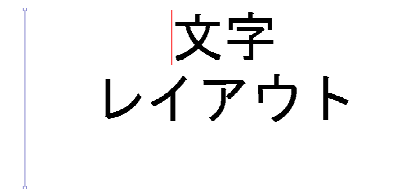
- ・**枠づめ** : レイアウト枠に合わせて文字の大きさが変動します。



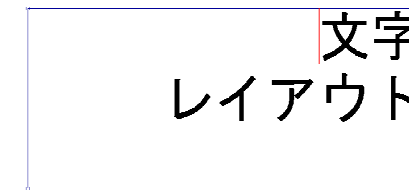
- ・**前づめ** : 文字の大きさはそのままレイアウト枠の前方に詰めます。



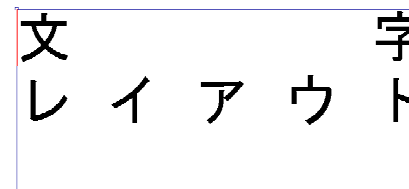
- ・**中づめ** : 文字の大きさはそのままレイアウト枠の中央に揃えます。



- ・**後づめ** : 文字の大きさはそのままレイアウト枠の後方に詰めます。



- ・**均等** : 文字の大きさは変えず、レイアウト枠に合わせ均等配置します。



枠内縮小 : 文字列がレイアウト枠からはみ出る場合に、レイアウト枠に収まるように文字列を縮小します。

行方向 : 文字を縦方向にどう配置するか選択します。

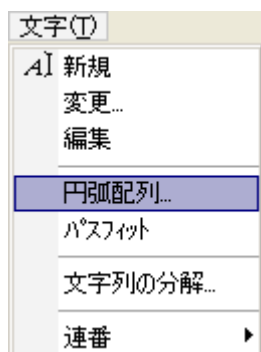
自動改行 : 文字列がレイアウト枠からはみ出る場合、自動的に改行をします。

編集



変更する文字列を選択した状態で[編集]を選択すると、テキストを直接入力により編集することが出来ます。

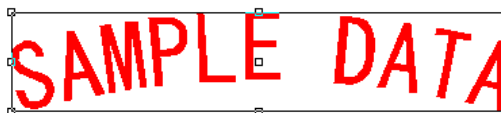
円弧配列



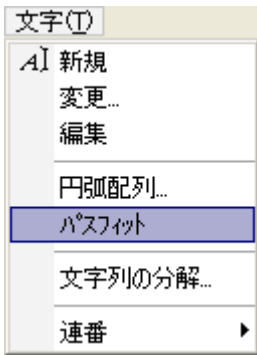
文字を円弧状に配列することが出来ます。

◆ 文字を円弧配列する

- 【1】 円弧配列を実行したい文字枠を選択します。
- 【2】 [文字]－[円弧配列]を選択すると『円弧配列』のダイアログボックスが開きます。
- 【3】 [角度]に任意の数字を入力して、【OK】をクリックします。



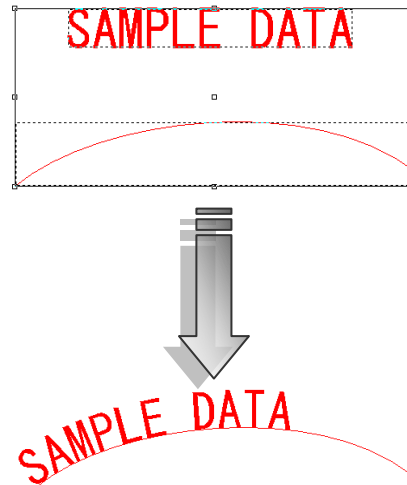
パスフィット



文字を図形に沿って配置することが出来ます。

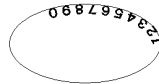
文字をパスフィットする

- 【1】文字枠と図形を同時に選択します。
- 【2】[文字]－[パスフィット]を選択すると図形に沿って文字が配置されます。

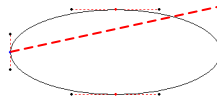


パスフィットは図形の始点から処理を開始され、図形データの上に乗るようにレイアウトが実行されます。

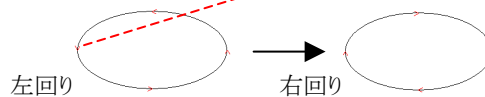
※ 下記のように作図した楕円にパスフィットすると図形の内側にフィットする不都合を解決する手順をご説明します。



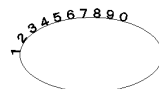
- 【1】「図形修正」の「始点移動」を使用して、ここに始点を移動します



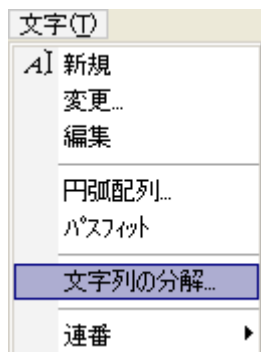
- 【2】「図形修正」の「回転方向」でマークをクリックして「回転方向」を変更します。



- 【3】修正した楕円を利用してパスフィットすると下記のようにフィットします。



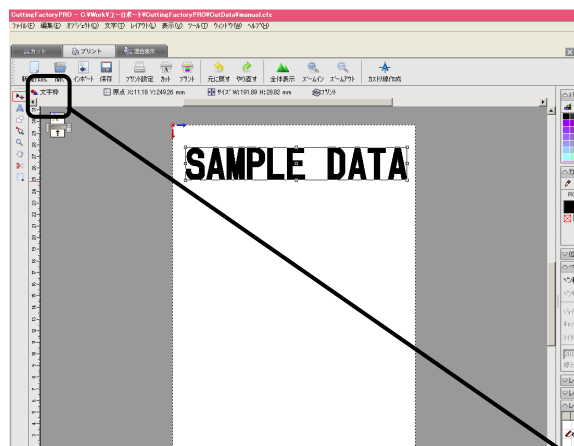
文字列の分解



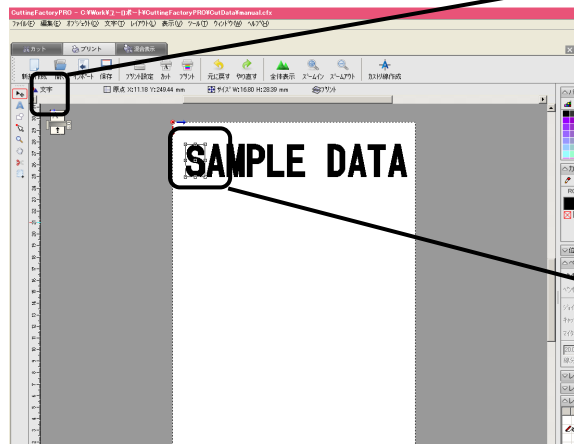
選択した文字列を分解してアウトライン化します。文字列の分解を行うと、文字の輪郭をパスに変換して図形として扱うことが出来ます。

ベクトル修正で文字列を変形させる時や設定したフォントが入っていない他のパソコンで開く時には、文字をアウトライン化してください。

※アウトライン化は TrueType 文字を含む全ての文字について可能です。

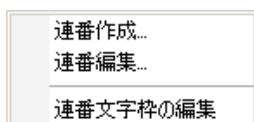


オブジェクトの種類が「文字列」から「文字」に変換されます。



1 文字ずつに分解され、パス変換されます。

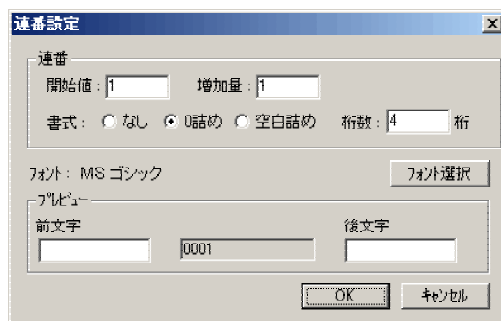
連番



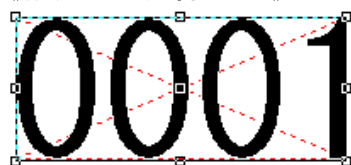
連番データは画面上では、同じものが表示されていますが、カット時には連番となってカットされます。

このコマンドでは、連番データを作成することができます。

[連番作成]を選択すると『連番設定』ダイアログボックスが表示されます。必要な情報を入力し、【OK】ボタンを押します。



《作成された連番データ》



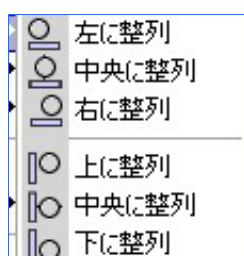
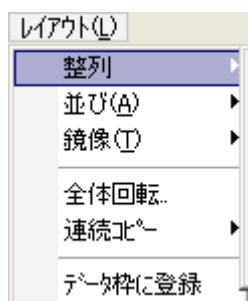
このデータを連続カットすると、『連番設定』で設定した増加量だけ、カットしたデータの枚数にあわせて増加していきます。

また、連番データを選択し、[連番編集]を選択すると『連番設定』ダイアログが表示され、連番データの編集が行えます。[連番文字枠の編集]を選択すると、連番を配置する文字枠の位置を変更できます。

第 2-6 章 レイアウトメニュー

- 整列
- 並び
- 鏡像
- 全体回転
- 連続コピー
- データ枠に登録

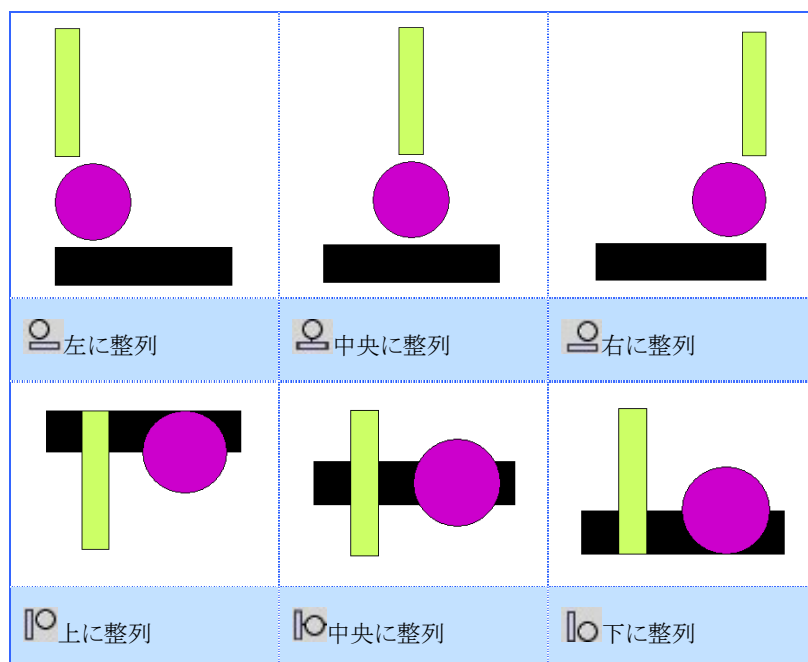
整列



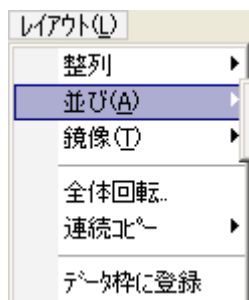
複数のオブジェクトを横軸または縦軸に沿うように揃えて配置します。整列させる複数のオブジェクトを選択し、コマンドを実行します。

複数のオブジェクトを整列させる

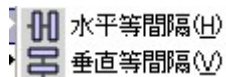
- 【1】 整列を実行する複数のオブジェクトを選択します。
- 【2】 [レイアウト]－[整列]の中から整列の種類を選択します。



並び



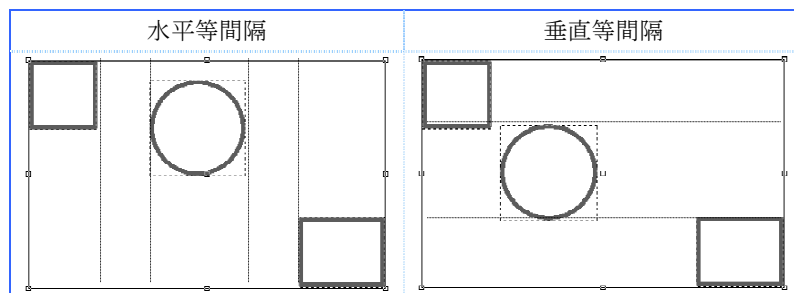
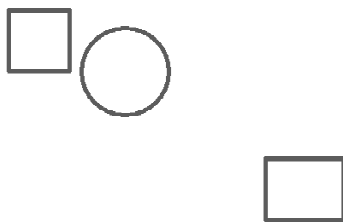
複数のオブジェクトを水平等間隔、垂直等間隔に揃えて配置します。



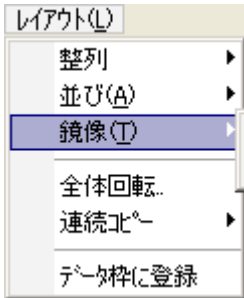
複数のオブジェクトを並べる

- 【1】 並びを実行する複数のオブジェクトを選択します。
- 【2】 [レイアウト]－[並び]の中から並びの種類を選択します。

並びコマンド実行前



鏡像

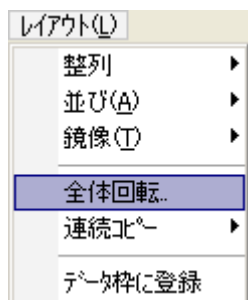


図形を水平方向や垂直方向に反転させます。

オブジェクトを反転させる

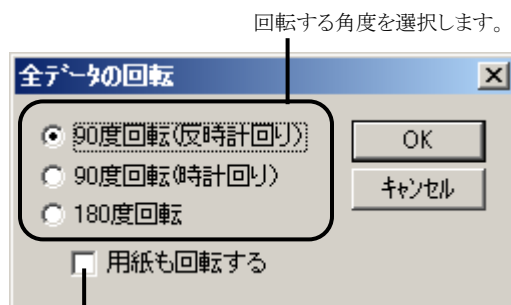
- 【1】** 反転させたいオブジェクトを、選択します。
- 【2】** 水平方向に反転させたい場合には、[レイアウト]－[鏡像]－[水平方向] を選択します。
- 【3】** 垂直方向に反転させたい場合には、[レイアウト]－[鏡像]－[垂直方向]を選択します。

全体回転

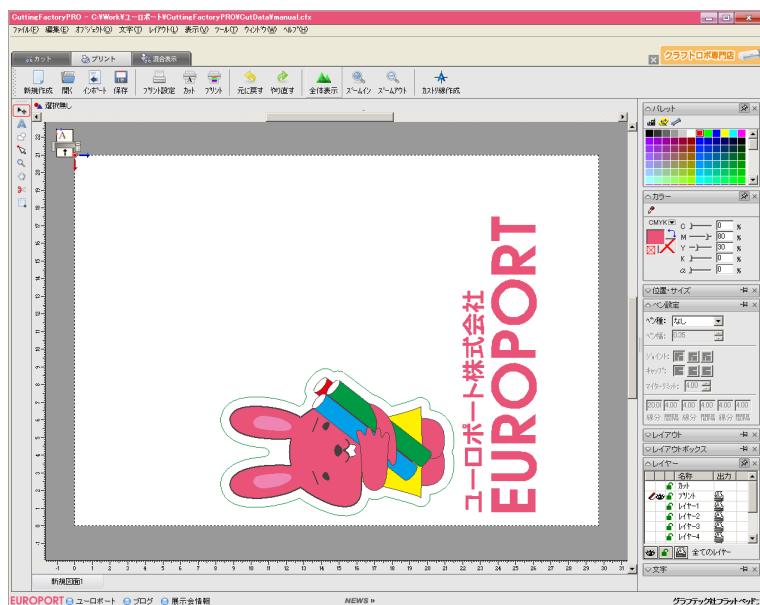


回転角度を指定して図面全体を回転します。

オブジェクト全てだけでなく、用紙全体もオブジェクトと同様に回転させることができます。ただし、メタファイルが配置されている場合、メタファイルオブジェクトのみ回転されません。



用紙全体も回転する場合は、チェックを入れます。



連続コピー



選択したオブジェクトのコピーを複数作成します。

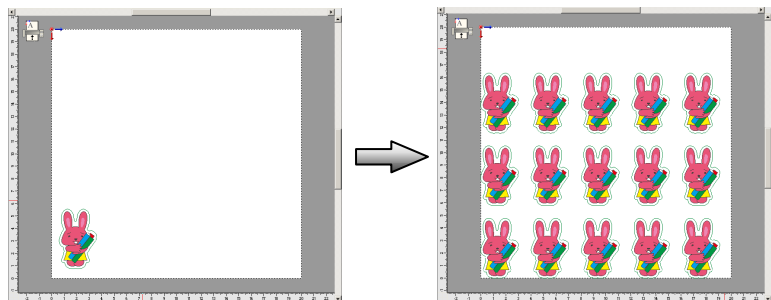
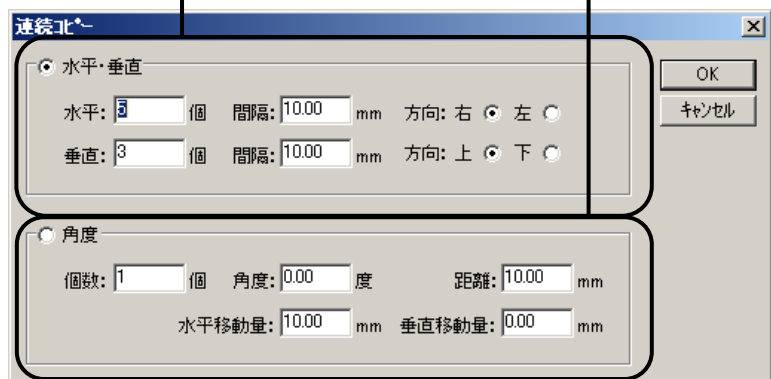
コピーしたオブジェクトの配置方法は、タイル状・直線状・円状の 3 種類があります。

[連続コピー]－[連続コピー]から「水平・垂直」を選択すると、タイル状に配置します。「角度」を選択すると、任意の角度の直線状に配置します。

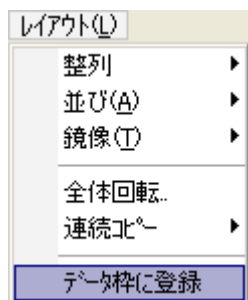
[連続コピー]－[円状コピー]を選択すると、円状に配置します。

水平、垂直それぞれにコピーする個数、コピーするオブジェクトの間隔を設定します。

任意の角度の方向に連続コピーを実行します。



データ枠に登録



選択したオブジェクトをデータ枠に登録します。データ枠に登録することによって、レイアウト BOX でのデータ枠の範囲が設定されます。

◆ レイアウト BOX でデータ枠を利用する

- 【1】 レイアウト配置を行うオブジェクトを選択します。
- 【2】 『レイアウト BOX』ダイアログボックスの基準を「データ枠」にして配置方法を選択します。



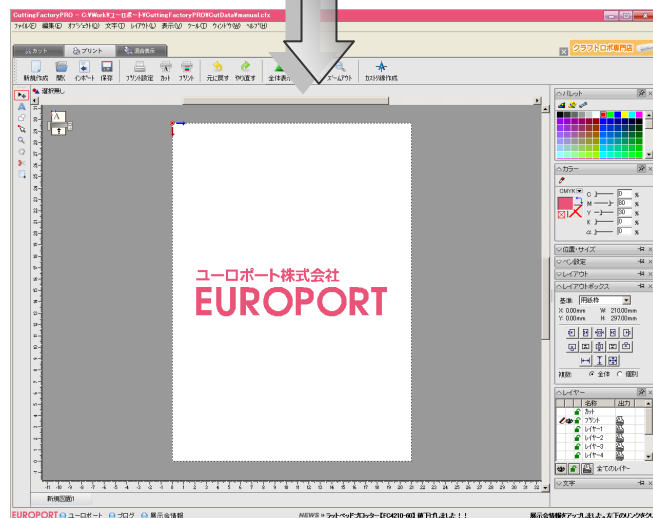
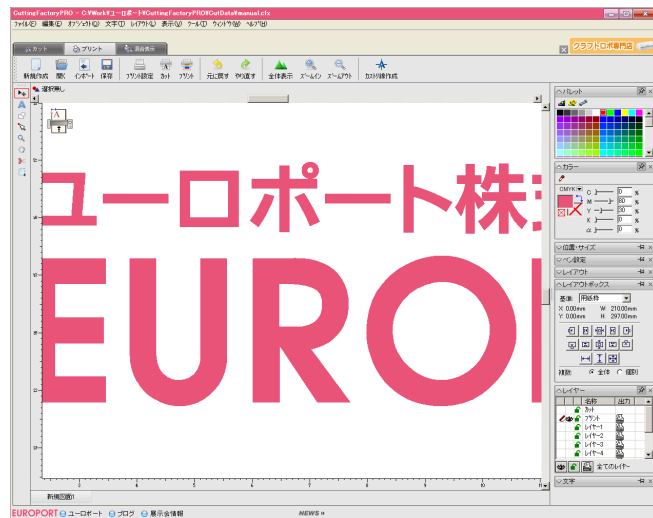
第 2-7 章 表示メニュー

- 全体表示
- 用紙表示
- 実寸表示
- ズームイン
- ズームアウト
- オブジェクトビュー
- グリッド表示
- グリッドヘスナップ
- グリッド設定
- ガイド表示
- ガイドヘスナップ
- ガイド設定

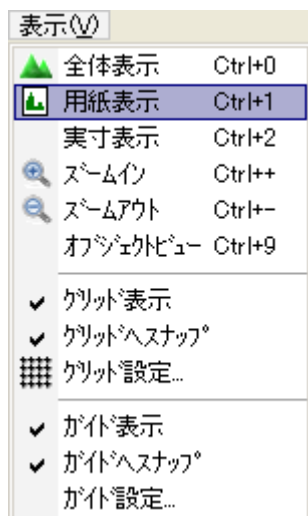
全体表示



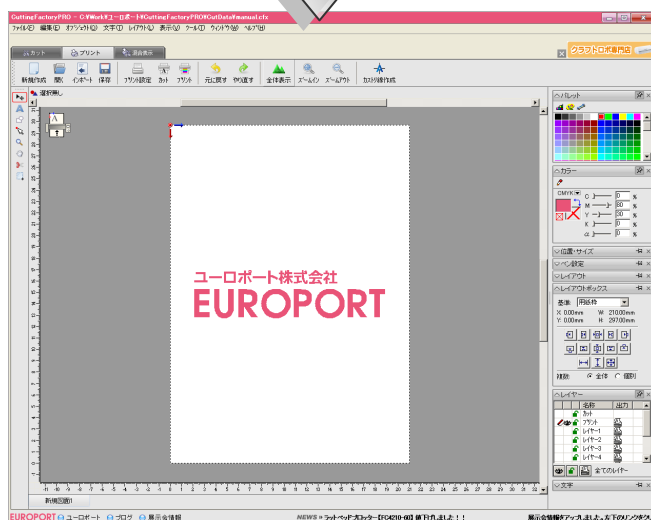
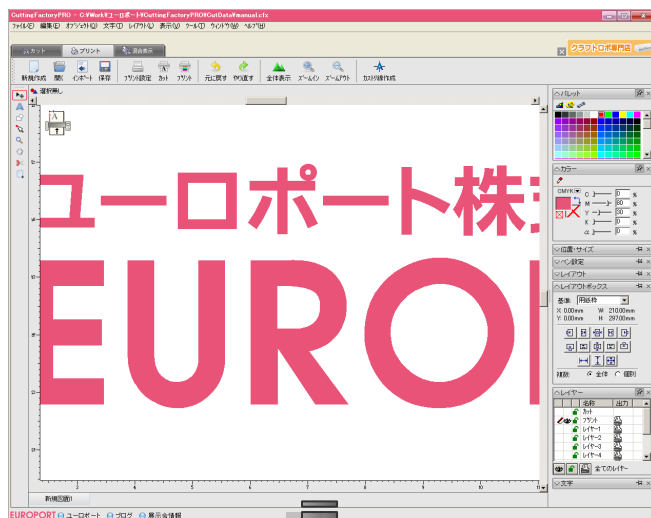
ズームインまたはズームアウトしている図面をオブジェクト全体表示のように変更します。



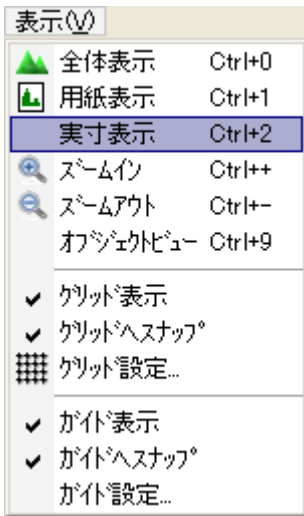
用紙表示



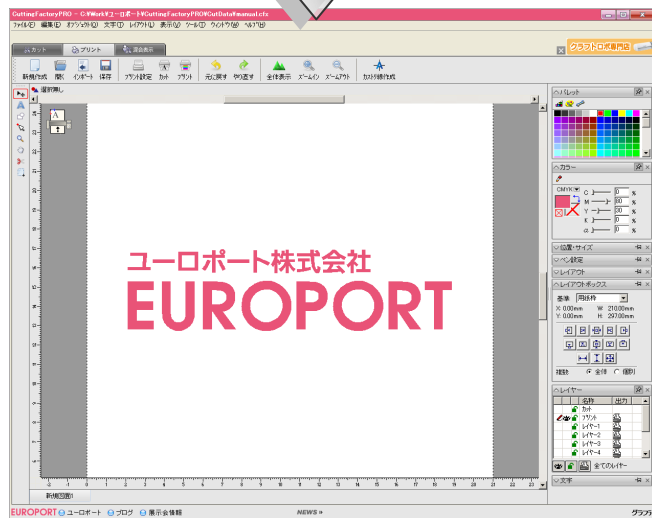
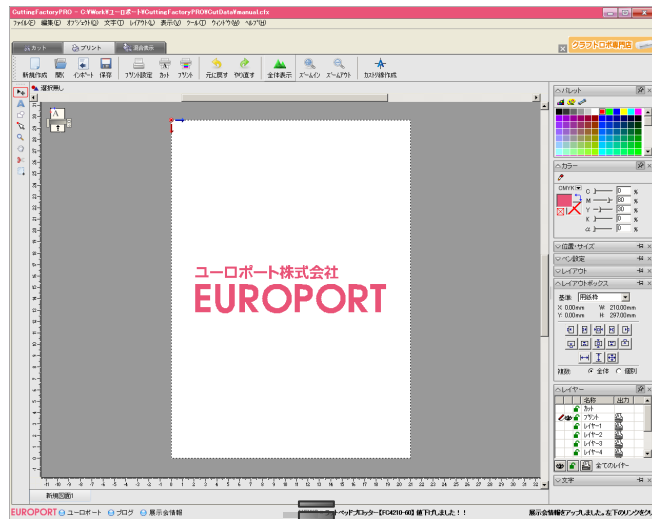
ズームインまたはズームアウトしている図面を、用紙サイズに合わせて表示します。



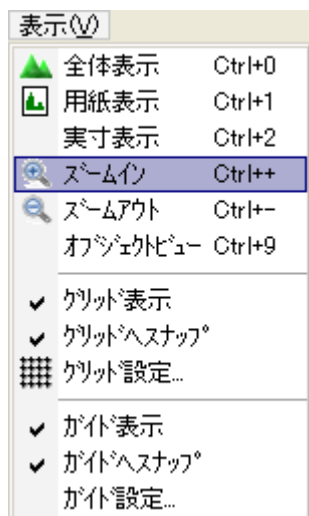
実寸表示



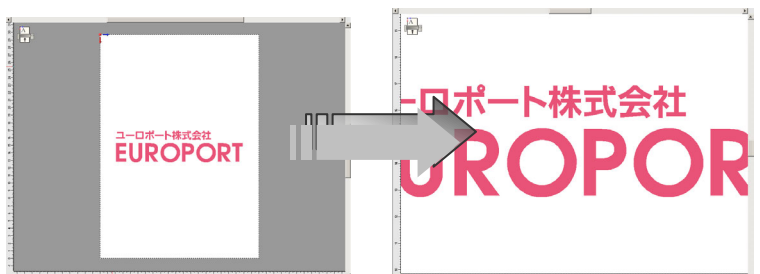
ズームインまたはズームアウトしている図面を、実寸サイズに合わせて表示します。



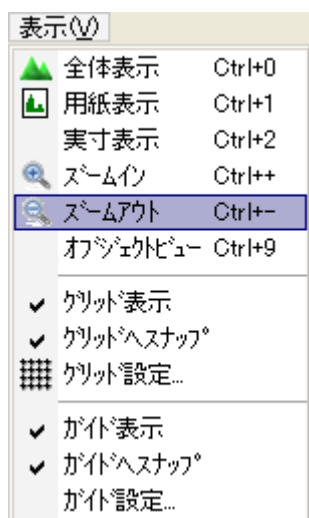
ズームイン



選択するたびに、表示サイズが段階的に拡大されます。

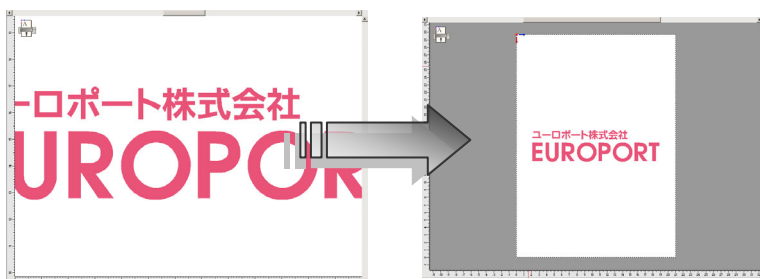


ズームアウト

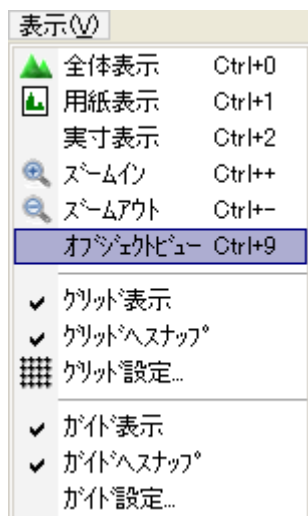


選択するたびに、表示サイズが段階的に縮小されます。

全体的な仕上がりを確認しながら編集・作成をする時には、こちらのズームアウト機能で縮小表示すると効率よく作業をすることが出来ます。

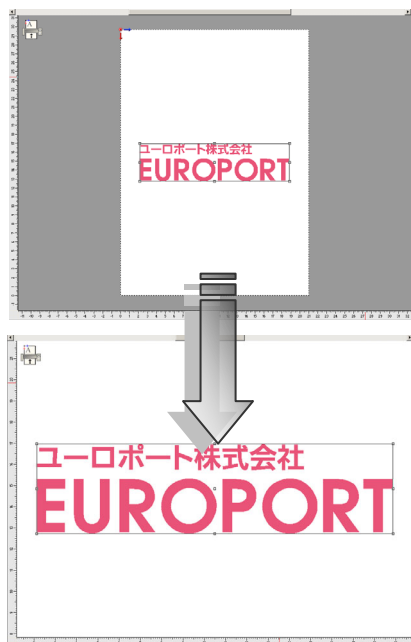


オブジェクトビュー

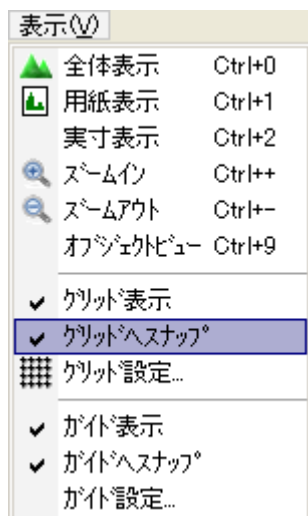


選択したオブジェクト全体を表示します。

選択したオブジェクトの編集を中心に行う場合には、このオブジェクトビューで表示すると目的のオブジェクトを中心に拡大・縮小表示され、効率よく編集することが出来ます。

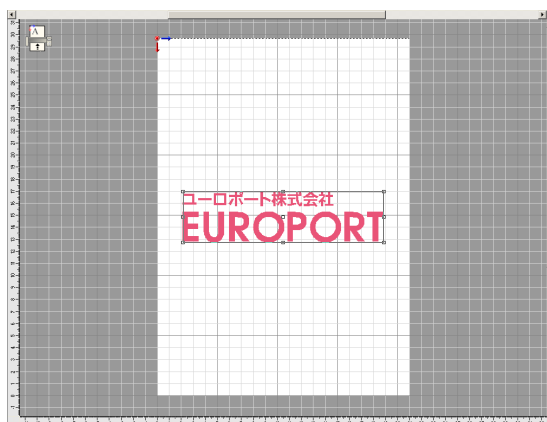


グリッド表示

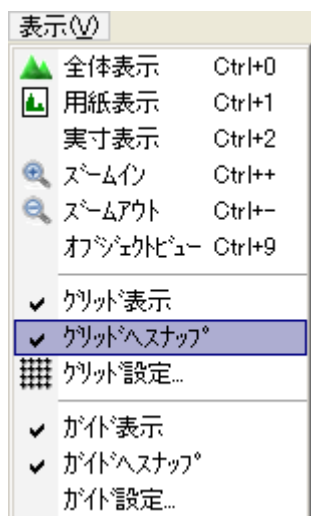


「グリッド」と呼ばれる、一定間隔の格子状ガイドが表示されます。グリッド表示のチェックを外すとグリッドが非表示になります。

グリッドには格子と点の 2 種類があり、初期設定では格子で表示されます。[表示]－[グリッド設定]でグリッドのスタイル、色、間隔などを変更することが出来ます。

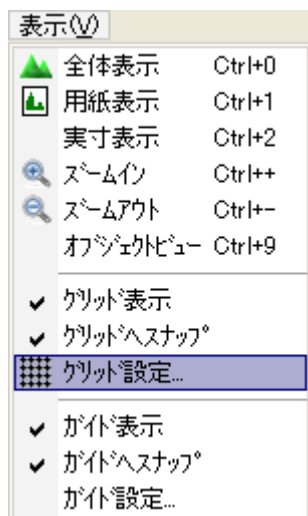


グリッドヘスナップ



[グリッドヘスナップ]にチェックが付いている状態で、オブジェクトをグリッドの近くに移動させると、自動的にオブジェクトがグリッドに吸着します。

グリッド設定



『グリッド設定』ダイアログボックスが表示され、グリッドのスタイル・サイズ・色等を変更することが出来ます。

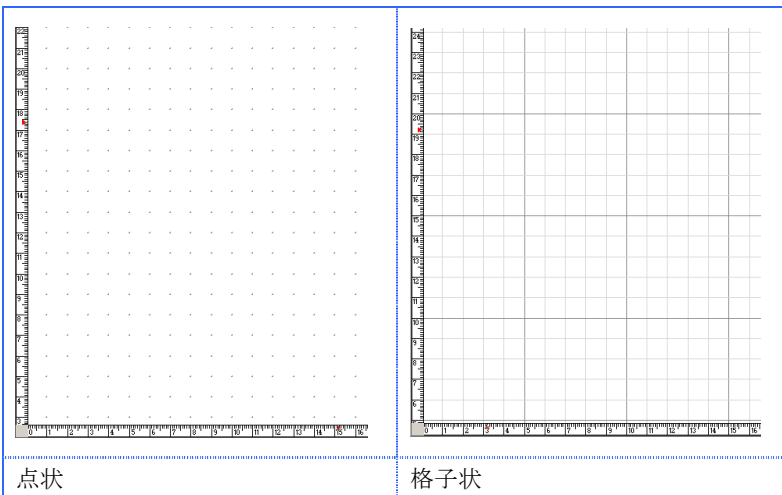
[表示]－[グリッド表示]
と同機能です。

[表示]－[グリッドヘスナップ]
と同機能です。

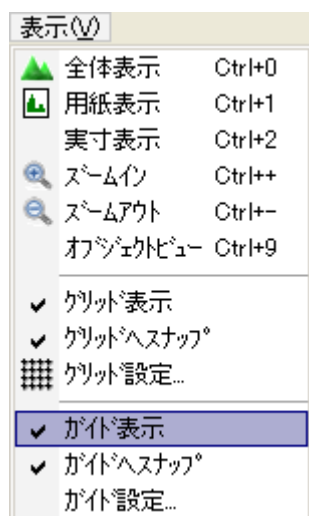


グリッドのスタイル・サイズ・色を
設定します。

グリッドのスタイル



ガイド表示

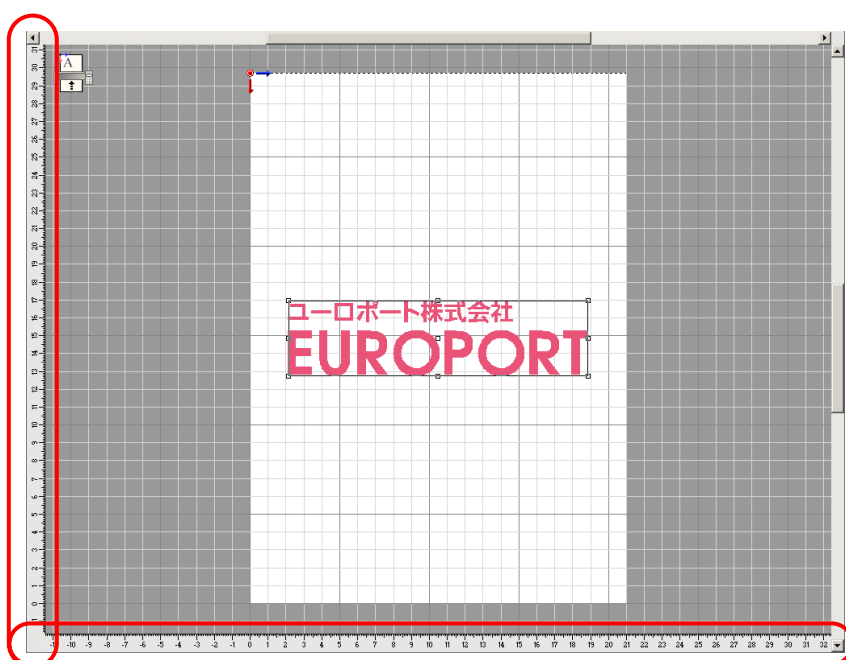


任意の場所にガイドを引くことが出来ます。

[ガイド表示]を選択した後、左か下のメジャー部分の任意の場所をクリックするとガイドが表示されます。

ガイド表示のチェックを外すとガイドは非表示になります。

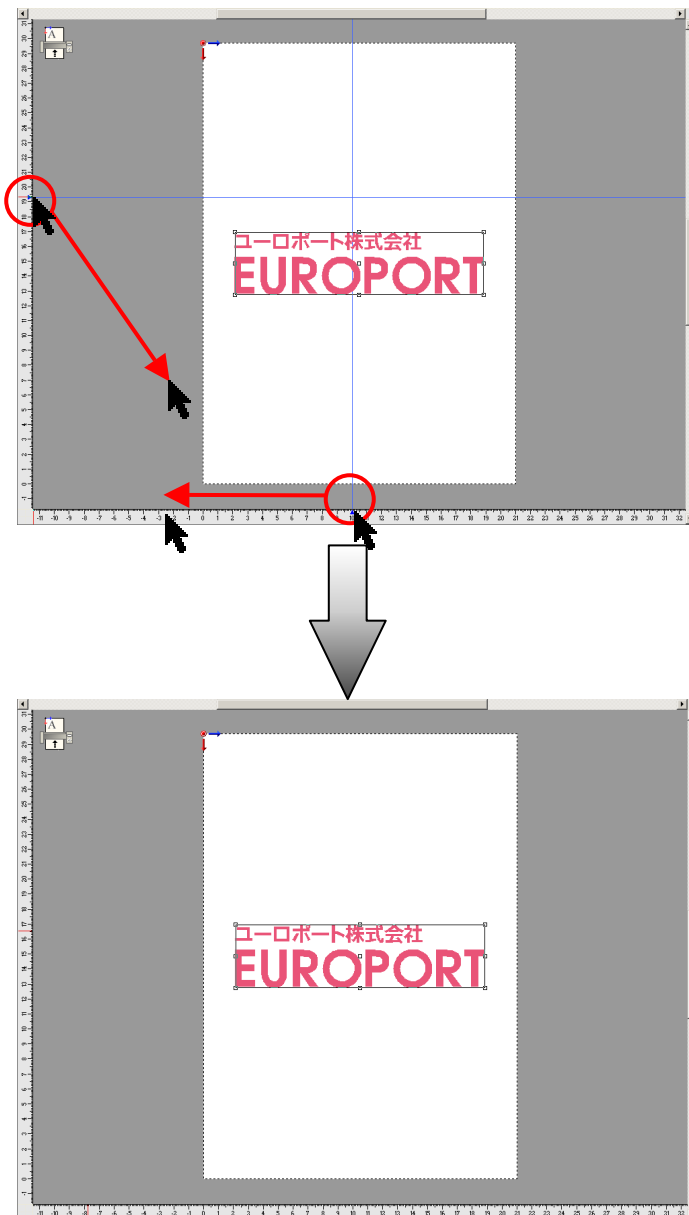
ガイドの色は[表示]－[ガイド設定]で変更できます。



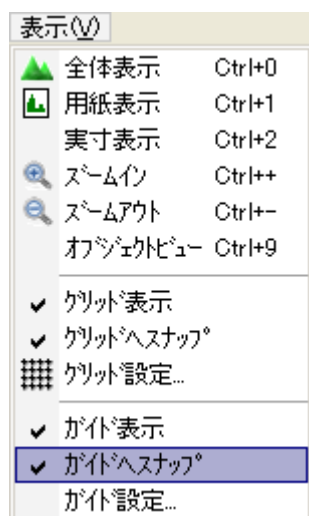
[ガイド]の移動・削除

ガイドを作成した後にメジャー上に表示されている ▲ をメジャー上の別の位置へドラッグすることで任意の点へ移動させることができます。

また、ガイドを作成した後、メジャー上に表示されている ▲ をメジャー上ではない位置へドラッグするとガイドを削除することができます。



ガイドヘスナツプ



[ガイドヘスナツプ]にチェックが付いている状態で、オブジェクトをガイドの近くに移動させると、自動的にオブジェクトがガイドに吸着します。

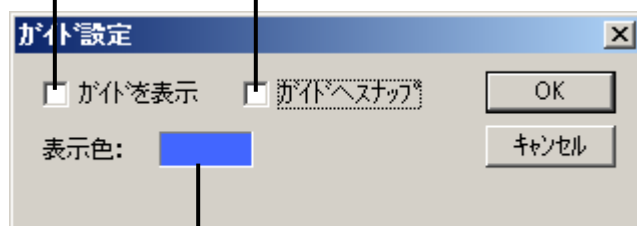
ガイド設定



『ガイド設定』ダイアログボックスが表示され、ガイドの色を変更することが出来ます。

[表示]－[ガイド表示]と同機能です。

[表示]－[ガイドヘスナツプ]と同機能です。



ガイドの色を設定します。

第 2-8 章 ツールメニュー

- トレース
- 画像編集
- オフセット
- パスファインダ
- 影付け
- エンベロープ
- 矩形変形
- ペンのアウトライン化
- グラデーションコントロール
- カス取り線作成
- 表組・罫線の作成
- トンボ作成

トレース

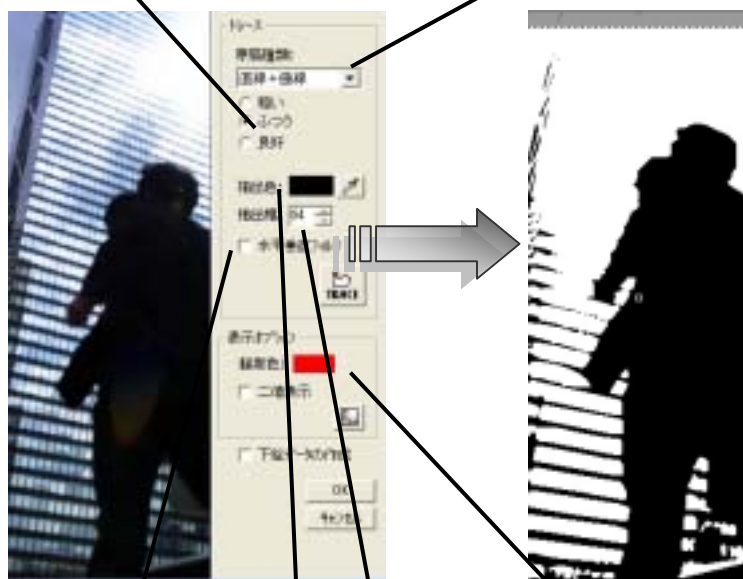


選択した画像オブジェクトをベクトルデータ (アウトライン) に変換します。トレース実行後は、ベクトル修正を行うことができます。

『トレース』ダイアログボックスで設定を行い、 ボタンをクリックするとトレースのプレビューが画面左に表示されます。設定が終了したら [OK] ボタンをクリックしてトレースを実行して下さい。

原稿の粗さを選択します。ベクタライズを実行する原稿の品質に応じて原稿粗さを選択します。

原稿種類を選択します。これを元に、より原稿に忠実なベクトルデータを作成します。



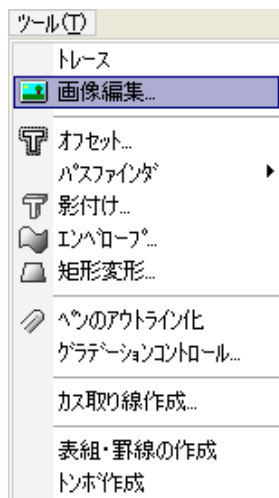
チェック ON の場合、水平 (垂直) に極めて近いデータを自動的に水平 (垂直) になるように調整します。

色を抽出する際の許容幅を設定します。

トレース実行後の輪郭色を指定します。

2値化するための抽出色を指定します。

画像編集



『画像編集』の役割

[ツール] — [画像編集] を選択すると、『画像編集』ダイアログボックスが開きます。このコマンドは、画像データに様々な質感や風合いを加える機能です。



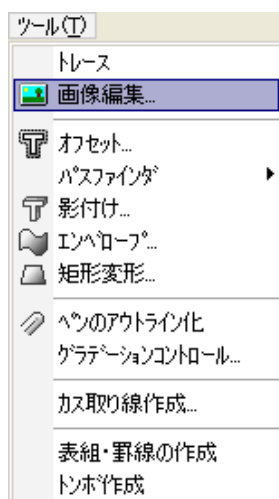
このコマンドは、画像データにのみ有効となります。

手順 画像編集を行う

選択ツールで編集を行う画像オブジェクトを選択します。

『画像編集』ダイアログボックスで編集を行います。

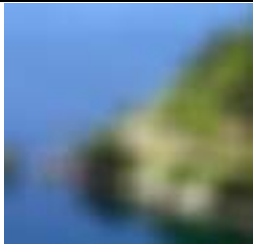
[決定] ボタンをクリックして編集した内容を確定します。



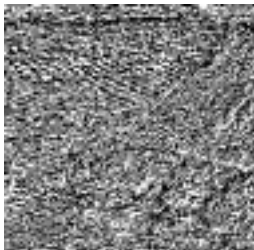
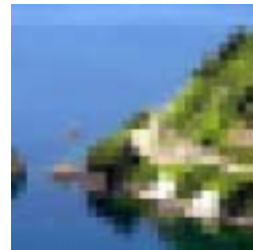
画像編集のメニュー

画像編集ダイアログボックスの上部にあるプルダウンメニューから編集作業を選択します。画像編集のメニューには、[フィルタ] [効果] [色] の3項目に分かれています。

フィルタの種類

		
エッジ強調	ぼかし	ノイズ除去

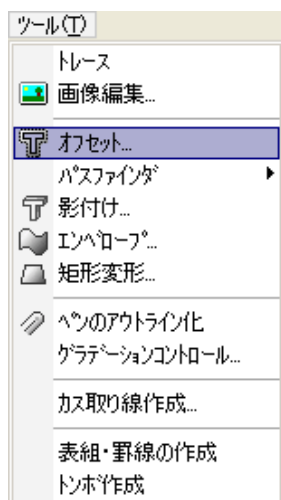
効果の種類

		
エンボス効果	モザイク処理	フェードアウト
		
トリミング プレビュー画像をドラッグし、切り取りたい範囲を囲み、[トリミング]を実行します。		

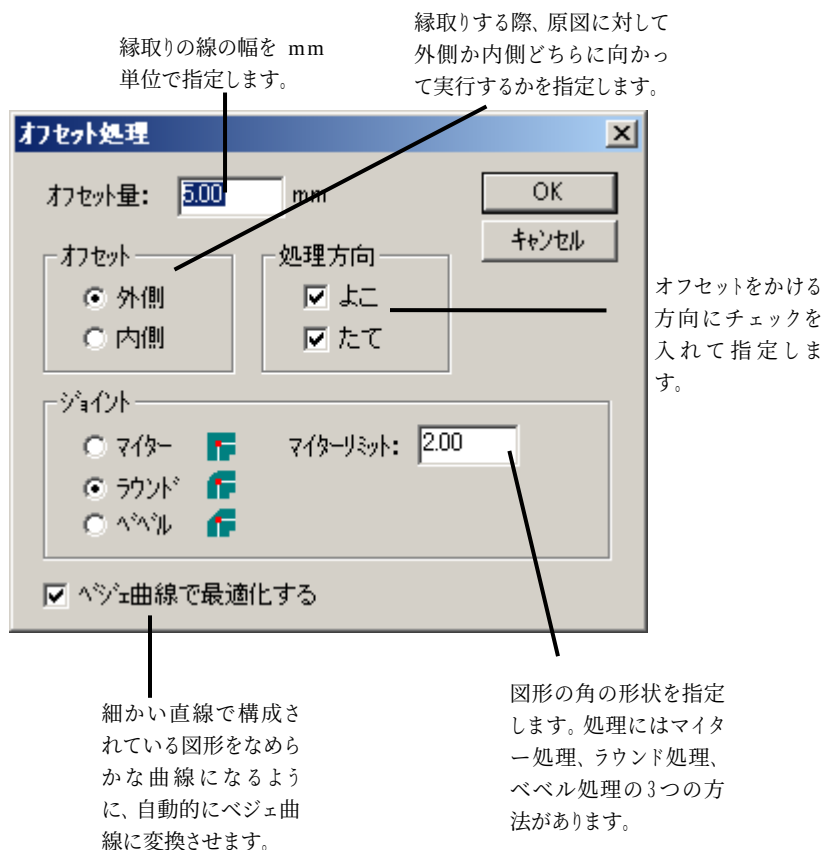
色補正の種類

コントラスト強調
 ネガポジ効果
 モノクロ画像
 彩度強調
 ガンマ補正
 色補正

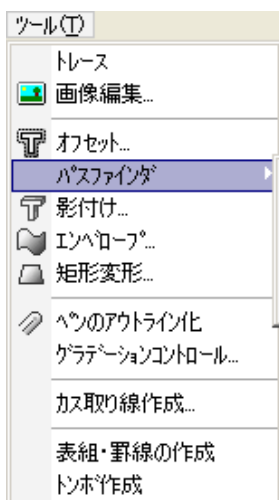
オフセット



選択したアウトラインデータ・文字データに対して外側あるいは内側にオフセット処理をします。『オフセット処理』ダイアログボックスが表示されますので、設定を入力して [OK] ボタンをクリックして下さい。



パスファインダ

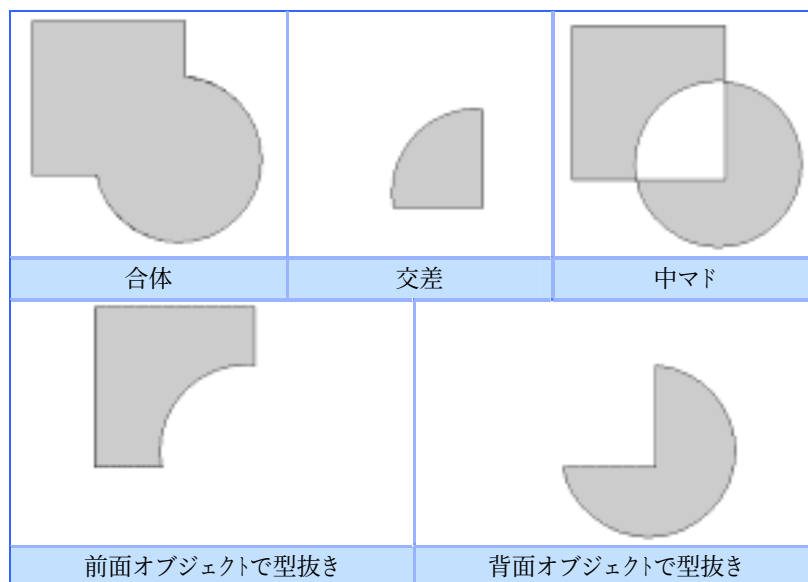


選択した複数のオブジェクトの合体などを行い、余分な線を削除します。

[ツール]—[パスファインダ]から処理の種類を選択すると『パスファインダ』ダイアログボックスが表示されます。「原画を残す」にチェックが入っていると、元の図形をコピーして残しておきます。

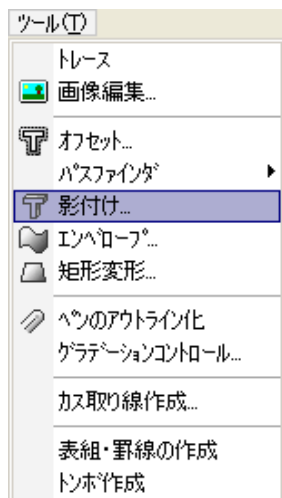


元画像



陰線処理を行って作成される図形は、選択したオブジェクトのうち最前面にあるオブジェクトの塗りこみ色が適用されます。

影付け

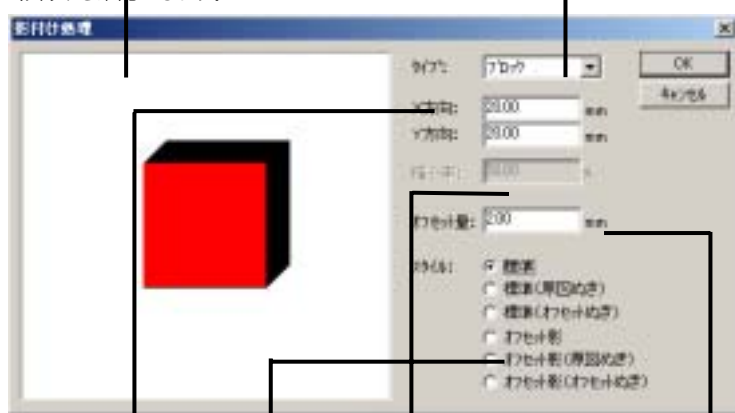


選択したオブジェクトに影付け処理を実行します。

『影付け』ダイアログボックスが表示されますので、画面の左に表示されるサンプルを確認しながら編集を行い、[OK] ボタンをクリックして下さい。

プレビューで設定をした影付けを確認できます。

影付けの処理には、4種類が用意されています。をクリックして種類を選択してください。

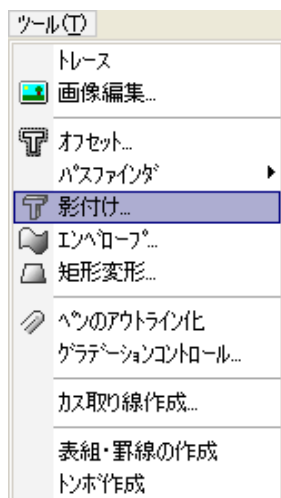


X・Y方向それぞれの処置を mm 単位で設定します。

「パース」影付けのみ指定します。奥行きを縮小率を原図に対してどれだけ小さくするかを指定します。

各影付けタイプに6パターンのスタイルが用意されています。

縁取りの線幅を mm 単位で設定します。下のスタイルで指定する、オフセット指示のある影付けのみ影響します。



影付けのスタイル

● ブロック

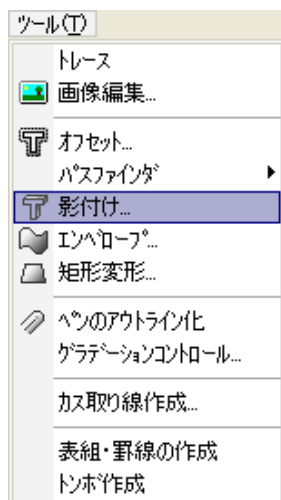
ブロック (積み木) のような立体的な影です。処理方向で原図に対してどれだけ影を伸ばすかを設定します。



● ドロップ

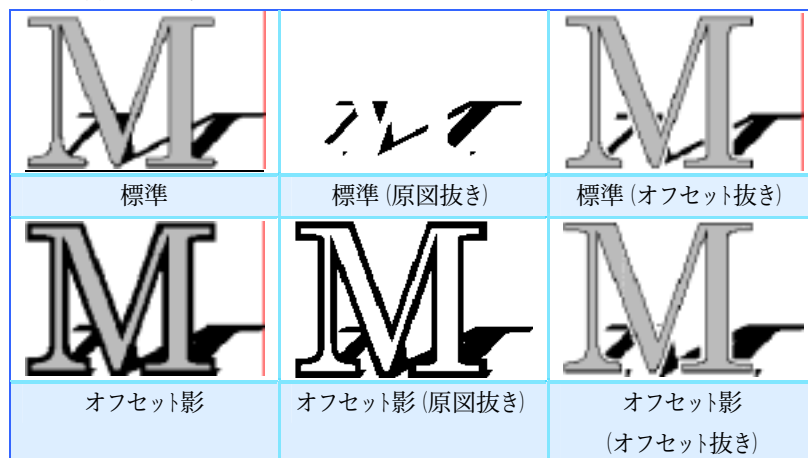
影が下に投影されて、原図が宙に浮いているような影です。処理方向で原図に対してどの位置に影を落とすかを設定します。





● キャスト

原図が垂直に立ち、影が一定方向に投影される立体的な影です。ちょうど太陽の光を受けたときに生じる影の形です。処理方向で原図に対してどれだけ影を伸ばすのか設定します。

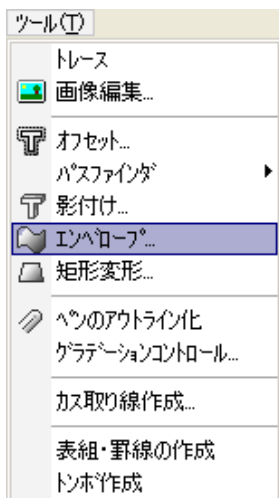


● パース

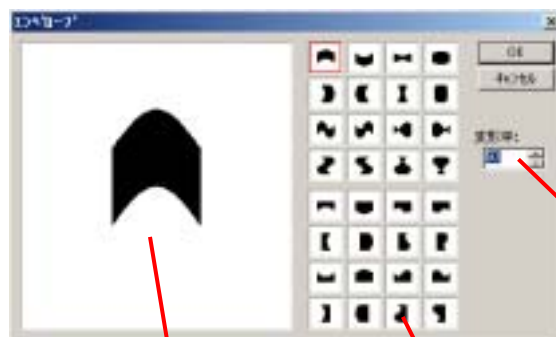
ブロック影処理に遠近を持たせた影です。飛び出したような形になります。処理方向で原図に対してどれだけ影を伸ばすのか設定します。又、一番奥に位置する影の図形のサイズを原図に対してどれだけ縮小させるかを% (0～200%) で設定します。



エンベロープ



選択したオブジェクトに対して、パターン変形を行います。パターンは、32 種類の中から選択できます。



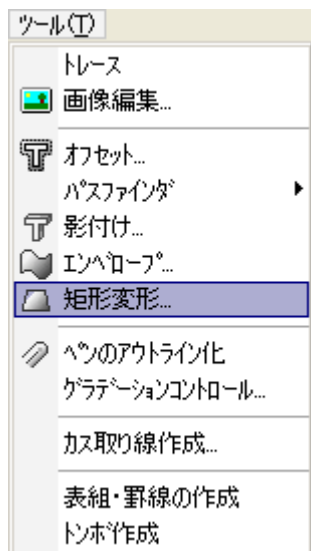
長方形がどのように変形するか
プレビューが表示されます。

32 種類の変形パターンがあります。
選択したパターンで変形します。



一度変形させた図形を別のパターンで再度変形させる場合は、元に戻すで元に戻してから行って下さい。

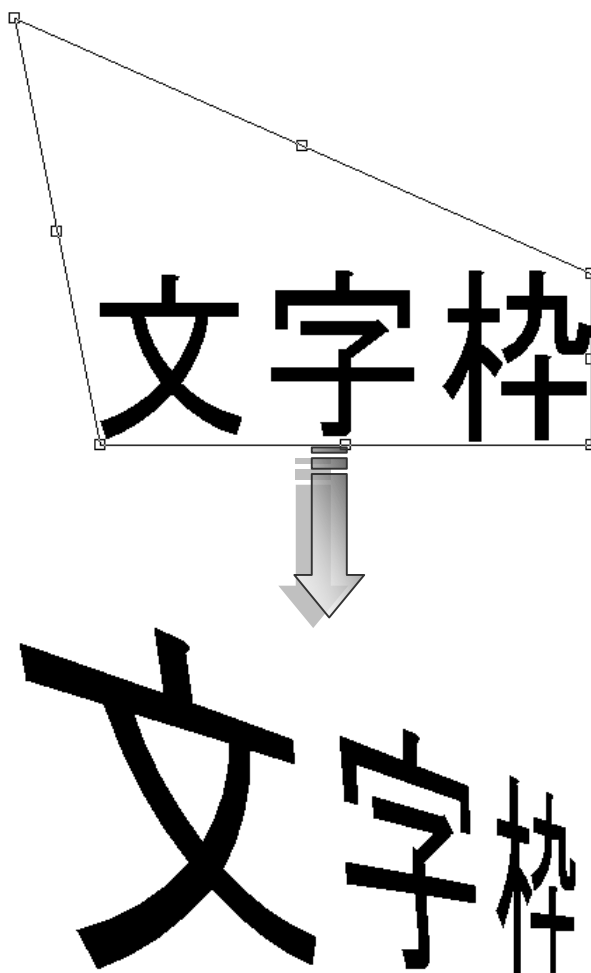
矩形変形



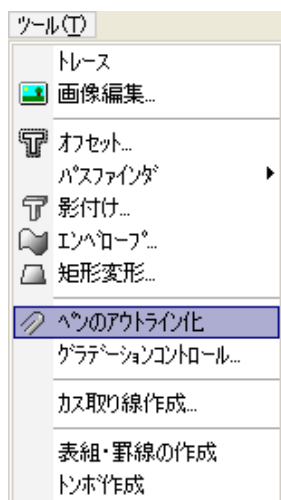
選択した文字列や図形に対して変形処理を行います。枠の外側の 8 カ所にアンカーポイントが表示されますので、自在に移動して変形します。

矩形変形を行う

- [1] 選択ツールで矩形変形を行うオブジェクトを選択します。
- [2] [ツール] — [矩形変形] を選択し、アンカーポイントをつかんで自由に変形を行います。
- [3] 作業ウィンドウ内にてダブルクリックをすると変形が確定します。



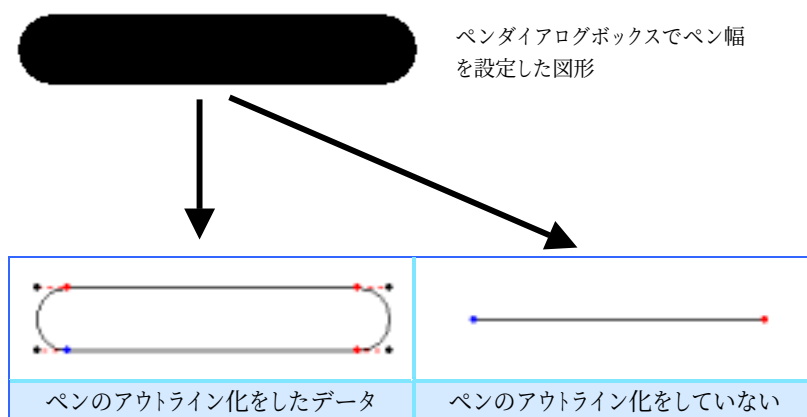
ペンのアウトライン化



選択したペンデータをアウトライン化します。ペンデータとは、『ペン』ダイアログボックスで設定した線データのことで、ペンデータをベクトル修正する場合は、あらかじめペンのアウトライン化を行って下さい。

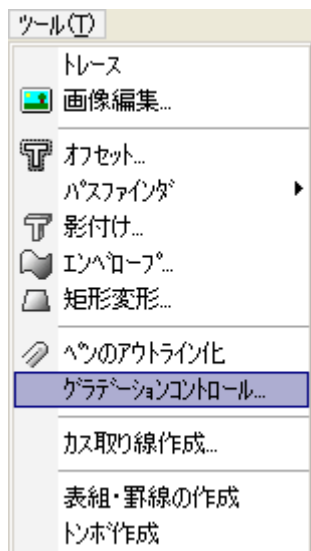


ペンのアウトライン化を実行した場合としていない場合とでは、ベクトル修正を使用した際、以下のように異なります。



文字のカッティングを行う場合は上の図のようにカットしますので、見た目の輪郭でカットしたい場合はペンのアウトライン化を行う必要があります。

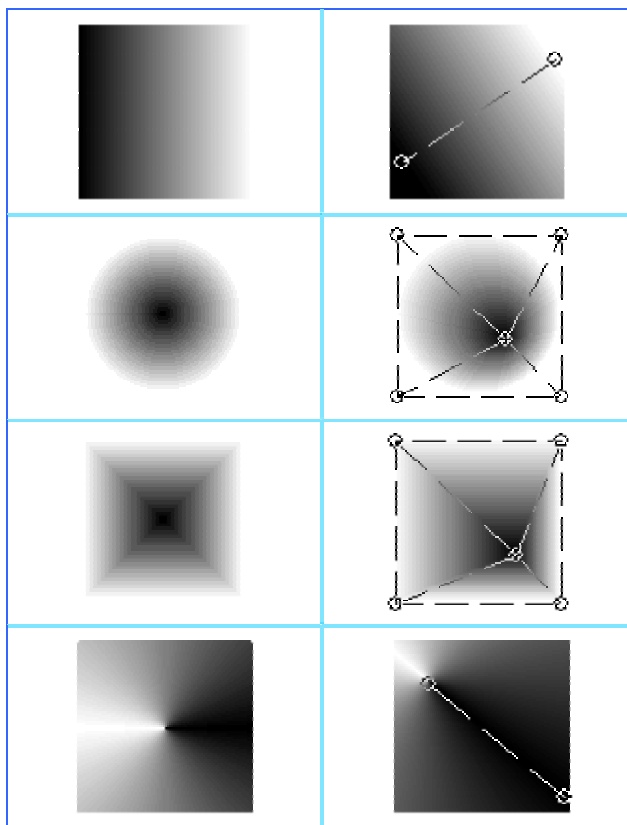
グラデーションコントロール



に設定されているグラデーションに対して、グラデーションの角度、長さ等を詳細にコントロールすることができます。

◆ グラデーションコントロールを実行する

- [1] グラデーション設定のされたオブジェクトを選択し、[ツール]－[グラデーションコントロール]を選択します。
- [2] グラデーションをコントロールするラインが表示されますので各アンカーポイントを任意の角度、長さになるようにドラッグします。
- [3] 設定を完了するときは、選択ツールから [選択] をクリックします。



グラデーションの種類によってコントロールのラインが異なります。

カス取り線作成



カッティングする際に付けるカス取り線を格子状に作成します。



- フレームオフセット

オブジェクトの外側に付ける余白の大きさを設定します。

- 間隔

カス取り線同士の間隔を設定します。設定方法には、以下の 3 種類があります。

- ◆ フリー

カス取り線の位置を自由に設定できます。

任意の位置でマウスをクリックすると、「追加方向」で設定した方向にカス取り線が引かれます。

ドラッグすると、カス取り線を移動できます。枠外までドラッグすると、消去できます。

- ◆ 分割数

カス取り線によって分割される数を指定し、等間隔に作成します。

- ◆ 距離

カス取り線同士の間隔を指定し、等間隔に作成します。

- クリア

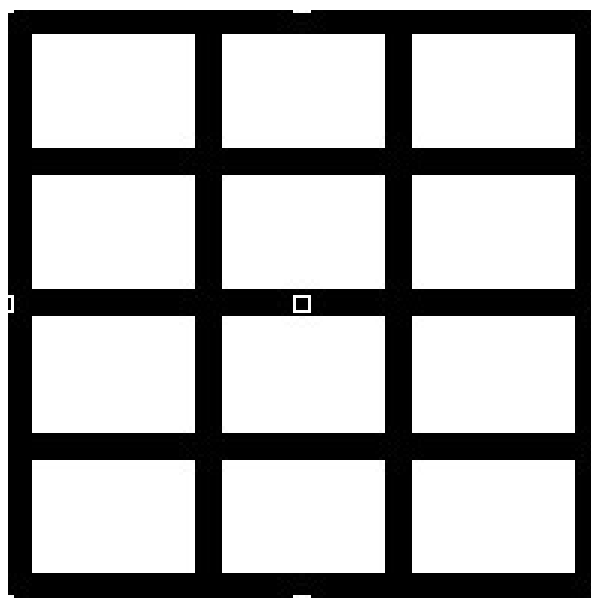
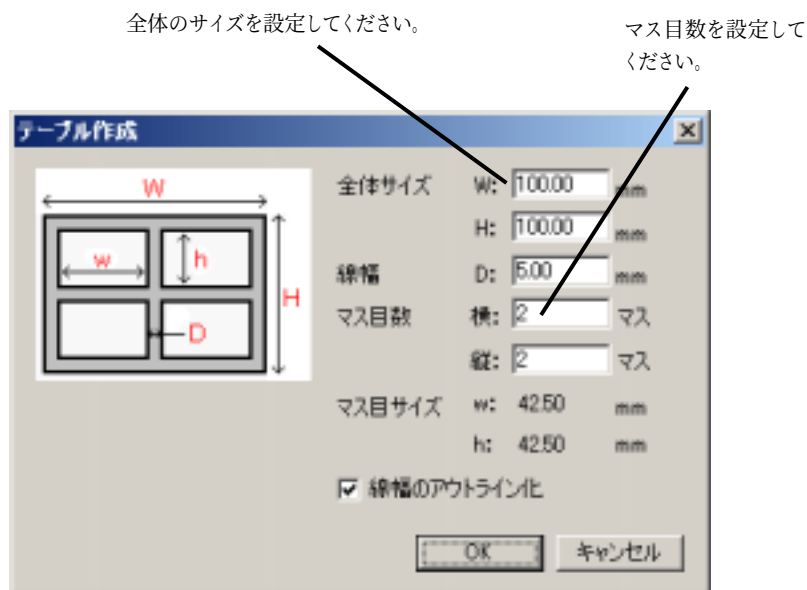
カス取り線を全て消します。

表組、罫線の作成



軸線幅・マス目数等を設定して自動的に表組・罫線を作成します。

『テーブル作成』ダイアログボックスに数値を入力し、【OK】ボタンをクリックして下さい。

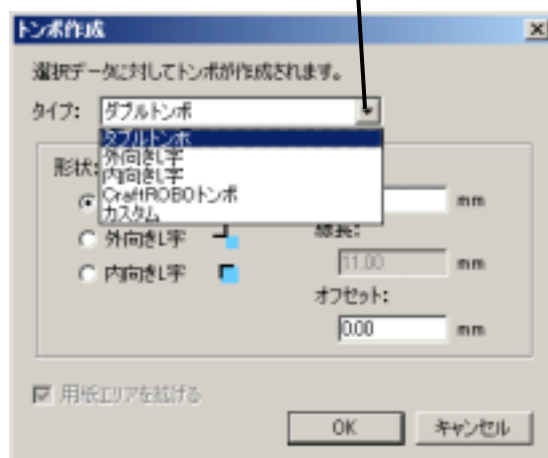


トンボ作成



現在、CuttingFactoryPRO 上で設定されている用紙情報や選択データの範囲を元にしてトンボデータを作成します。

トンボの形状を設定して下さい。



ダブルトンボ



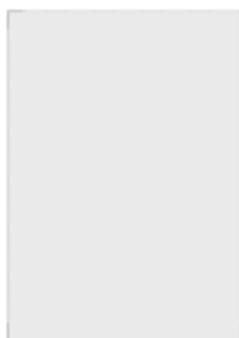
外向き L 字



内向き L 字



CraftROBO トンボ

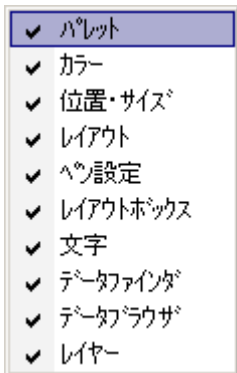


上記のパターンは用紙を対象にトンボを作成した状態です、オブジェクトを選択した状態でトンボ作成を実行するとオブジェクトの周囲にトンボが作成されます。

第 2-9 章 ウィンドウメニュー

- ウィンドウメニュー
- パレット・カラー
- 位置、サイズ
- レイアウト
- ペン設定
- レイアウトボックス
- 文字
- データファインダ
- データブラウザ
- レイヤー

ウィンドウメニュー



このメニューでは、各ウィンドウの表示状態の切り替えができます。

◆ ウィンドウの表示／非表示を切り替える

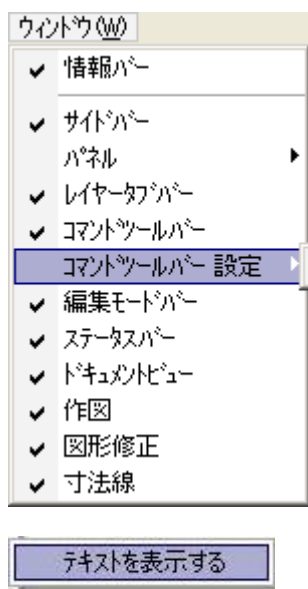
各ウィンドウ名を選択すると、表示／非表示が切り替わります。

以下のウィンドウについては、第 1 章「ウィンドウやツールの操作」を参照してください。

- 情報バー
- コマンドツールバー
- レイヤータブバー
- 編集バー
- ステータスバー
- 作図
- 図形修正
- 寸法線

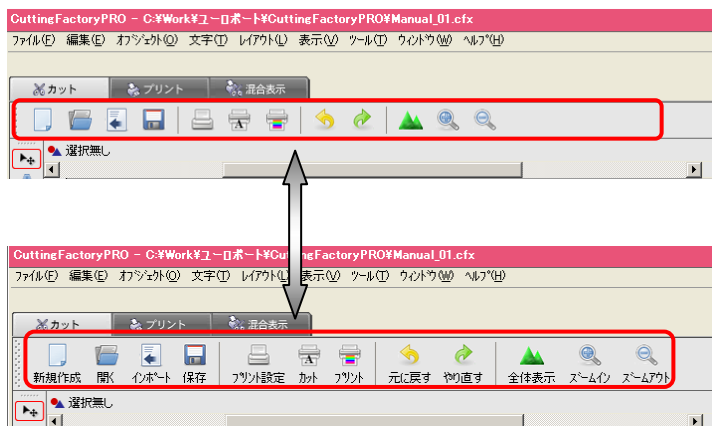
本章では、サイドバー内にある以下のパネルの操作について説明します。

- パレット
- カラー
- 位置・サイズ
- レイアウト
- ペン設定
- レイアウトボックス
- 文字
- データファインダ
- データブラウザ
- レイヤー

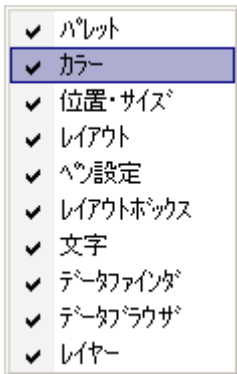
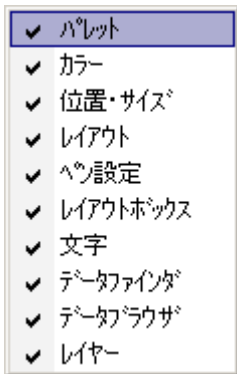


◆ コマンドツールバーにテキストを表示する

[コマンドツールバー設定]－[テキストを表示する]を選択すると、コマンドツールバーアイコンのテキストの表示／非表示が切り替わります。



パレット・カラー



注意

「カット」レイヤータブが
選択されている状態では「塗
り込み色」を変更することは
出来ません。

「パレット」パネル内の任意の色をクリックすると、選択した色が「カラー」パネルに
反映されます。

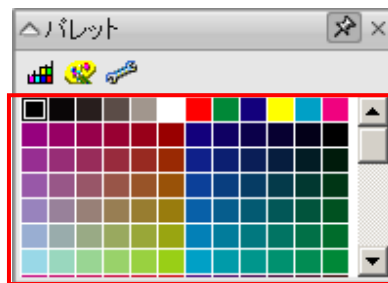
塗り込み色・線色変更

塗り込み色変更時はAを、線色変更時はBをクリックします。

パレットから任意の色をクリックするか、スライダを動かすか直接数値を入力するこ
とで RGB 値を指定すると、色が決定されます。

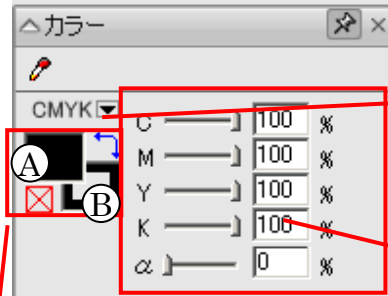
色を消去する場合は、をクリックします。

塗り込み色と線色を入れ替える場合は、をクリックします。



①パレット

塗り込み色、線色を設定します。
任意の色をクリックすると選択さ
れている図形の塗り込み色また
は線色が設定されます。



②RGB/CMYK 切り替え

RGBとCMYKの切り替えをしま
す。

③数値設定

数値によるカラー設定をします。

④カレントカラー

塗り込みまたは線の切り替えを行います。

また、パレットや RGB 設定などで指定した色が反映されます。

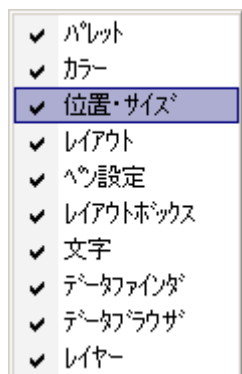
各アイコンの説明

パレットを指定したパターンで初期化します。

選択中のパレット位置に「カラー」パネルの色を登録します。

編集画面上のカラー情報を取り出し、カレントカラーに登録します。

位置・サイズ

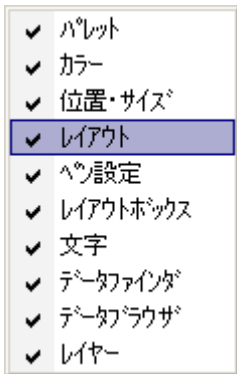


オブジェクトのサイズや位置を変更できます。

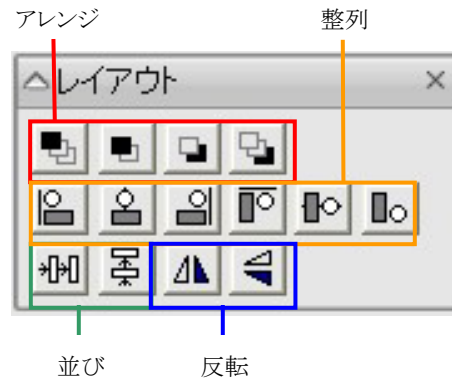
- 水平位置・垂直位置
選択したオブジェクトの位置を設定します。
- 水平サイズ・垂直サイズ
選択したオブジェクトのサイズを設定します。
- 縦横比を固定
チェックを入れると、水平サイズ・垂直サイズを変更した際に、縦横比を固定したままサイズ変更ができます。



レイアウト



整列、並び替えなどオブジェクトのレイアウトを行うことができます。



● アレンジ

選択したオブジェクトの重ね順を変更します。オブジェクトを選択し、下記のいずれかのアレンジ方法をクリックします。

(第 4 章「オブジェクトメニュー - アレンジ」参照)

● 整列

複数のオブジェクトを横軸または縦軸に沿うように揃えて配置します。整列させる複数のオブジェクトを選択し、コマンドを実行します。

(第6章「レイアウトメニュー - レイアウト」参照)

● 並び

複数のオブジェクトの間隔を縦横、等間隔に揃えて配置します。

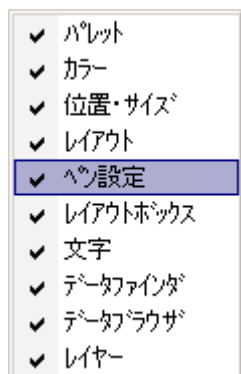
(第6章「レイアウトメニュー - レイアウト」参照)

● 反転

オブジェクトを左右または上下方向に反転させます。反転させるオブジェクトを選択し、コマンドを実行します。

(第6章「レイアウトメニュー - レイアウト」参照)

ペン設定



ペンの種類、ペンの線幅など、線種の設定を行います。



① ペン種

なし・実線・破線・一点鎖線・二点鎖線の5種類から選択します。

なし	実 線	破 線	一点鎖線	二点鎖線

⑤から、破線・一点鎖線・二点鎖線の線部と空白部の長さを設定できます。

② ペン幅

線の幅を設定します。mm 単位で数値を入力します。

線幅を 0mm に設定すると、画面、プリンタ等で最も細い線が表示されます。

③ ジョイント

ジョイントのスタイルを設定します。マイター、ラウンド、ベベルの中から選択してください。

マイター	ラウンド	ベベル

《マイターリミット》

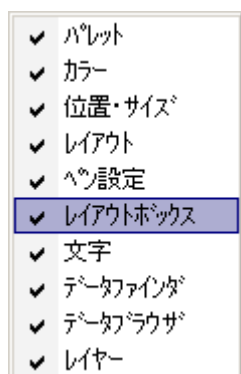
線分が鋭角に接続した場合、マイタージョイントによって接続点をはるかに超えて伸長してしまう場合があります。このように伸長しすぎた際、ある一定限度で切り落とすための制限値を設定します。

④ キャップ

キャップ(線端)のスタイルを設定します。スクエア、ラウンド、フラットの 3 種類の中から選択してください。

スクエア	ラウンド	フラット
		

レイアウトボックス



選択したオブジェクトを基準枠に沿ってレイアウトします。



① 基準

・作業枠:

作業枠を基準としてレイアウトします。

・用紙枠:

用紙設定で設定した用紙サイズを基準枠としてレイアウトします。

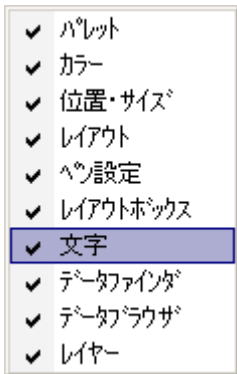
・データ枠:

メインメニューの[レイアウト]－[データ枠に登録]で設定された枠を基準枠としてレイアウトします。

② 編集リスト

左右方向		基準枠の左外に移動します。
		基準枠の左揃えに移動します。
		基準枠の左右中央に移動します。
		基準枠の右揃えに移動します。
		基準枠の右外に移動します。
上下方向		基準枠の下外に移動します。
		基準枠の下揃えに移動します。
		基準枠の上下中央に移動します。
		基準枠の上揃えに移動します。
		基準枠の上外に移動します。
フィット		図面の横にフィットするよう拡大します。
		図面の縦にフィットするよう拡大します。
		図面の縦横等比にフィットするよう拡大します。

文字



書体、文字サイズ、レイアウト等、文字に関する書式の編集を行います。

【書体】



書庫

書体の大分類を選択します。

書体

書体の種類を選択します。

【文字】



サイズ

1文字単位の大きさを設定します。

W:1 文字の横幅 / H:1 文字の高さ

縦書き

チェックを入れると文字を縦書きにします。

逆順

チェックを入れると文字の並びを逆にします。

斜体角度

斜体角度を設定します。

【字間】



字詰め

チェックを入れると字詰め(プロポーショナル)を有効にします。

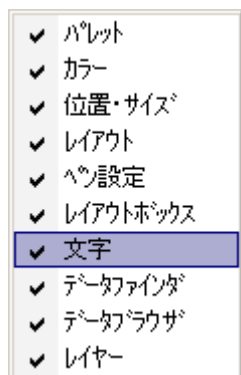
mm 単位

「文字間」「節間」「行間」の設定を mm 単位か%単位かに切り替えます。

「文字間」「節間」「行間」の設定

それぞれの間隔を設定します。

文字間率	1 文字ごとの間隔を設定します。
節間率	全角スペースの間隔を設定します。
行間率	1 行ごとの間隔を設定します。



【レイアウト】



枠フィット

文字列が指定枠にフィットするよう拡大縮小されます。

文字・行方向

「枠づめ」「前づめ」「中づめ」「後づめ」「均等」から文字のレイアウトを選択します。

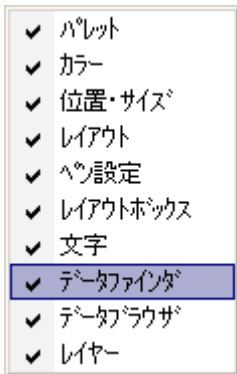
枠内縮小

枠内に収まるように文字が自動的に縮小されます。

自動改行

チェックを入れると文字のレイアウト枠に従って自動的に文章が折り返されます。

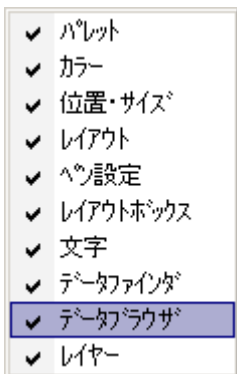
データファインダ



データファイルが保存されているフォルダを選択すると、データブラウザに読み込み可能なファイルの一覧が表示されます。操作方法は、エクスプローラーとほぼ同じ操作でフォルダの指定やファイルを選択することができます。

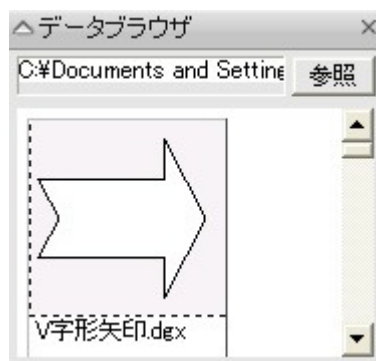


データブラウザ

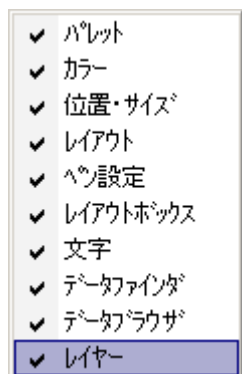


データファインダやデータセレクトで選択したフォルダ内のファイルを一覧表示します。個々で表示されるファイル形式は JPG・JPEG・BMP・TIF・DGX・EDX・AI・EPS です。

ここに表示されるファイルをドラッグして、作業ウィンドウ上にドロップすることでファイルを開くことができます。



レイヤー



レイヤーの選択や設定を行います。レイヤータブバーでは、プリントレイヤーとカットレイヤーの 2 つのレイヤーのみを切り替えますが、このパネルからさらに多くのレイヤーを切り替えて扱うことができます。それぞれ、アイコンをクリックすると状態が切り替わります。

■ アイコン

レイヤーの可視／不可視を切り替えます。

■ アイコン

レイヤー編集の可能・不可能を切り替えます。

■ アイコン

印刷する際に、可視状態のレイヤーのうち印刷アイコンがついているレイヤーだけが出力されます。



第 2-10 章 ヘルプメニュー

- チュートリアル
- コマンドリファレンス
- オンライン登録
- バージョン情報

チュートリアル



CuttingFactoryPRO のチュートリアルを開くことが出来ます

Adobe Reader など PDF が閲覧可能なソフトでマニュアルを開きます。

もし PDF が閲覧可能なソフトがない場合は、Adobe のホームページからダウンロードする等して入手して下さい。

コマンドリファレンス



CuttingFactoryPRO のコマンドリファレンスを開くことが出来ます

Adobe Reader など PDF が閲覧可能なソフトでマニュアルを開きます。

もし PDF が閲覧可能なソフトがない場合は、Adobe のホームページからダウンロードする等して入手して下さい。

オンライン登録



オンラインユーザー登録をすることが出来ます。オンライン登録することで各種サービスやサポートを受けることが出来るようになります。

(別冊チュートリアル *CuttingFactoryPro* 起動・ユーザー登録 参照)

バージョン情報



お使いの *CuttingFactoryPRO* のバージョン情報が表示されます。電話サポートをご利用の際には、このバージョン情報をあらかじめ調べてからお電話をお願いします。



バージョン情報が表記されています